

令和7年度から令和10年度使用久喜市立中学校教科用図書  
研究調査結果報告等資料

— 目 次 —

○学校からの研究報告結果・選定委員会集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～ 3

○研究調査報告書（久喜市教科用図書選定委員会）

・国 語（国語）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5～ 8  
・国 語（書写）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9～12  
・社 会（地理的分野）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13～16  
・社 会（歴史的分野）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17～25  
・社 会（公民的分野）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26～31  
・社 会（地図）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32～33  
・数 学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34～40  
・理 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41～45  
・音 楽（一般）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46～47  
・音 楽（器楽）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48～49  
・美 術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50～52  
・保健・体育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53～56  
・技術・家庭（技術分野）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57～59  
・技術・家庭（家庭分野）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60～62  
・外国語（英語）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63～68  
・特別の教科 道徳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69～75  
・こくご・国語（特別支援）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76  
・さんすう・数学（特別支援）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77  
・せいかつ（特別支援）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78  
・おんがく・音楽（特別支援）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79  
・社会（特別支援）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80  
・理科（特別支援）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81  
・職業・家庭（特別支援）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82

学校からの研究報告結果・選定委員会集計結果（中学校）

※「選定委員会」の欄には、5人の選定委員から5点満点で採点した合計得点を記入。

※「学校結果」の欄には、学校が5点満点で採点し、選定委員会と持ち点を合わせた結果を記入。

※特別支援に係る教科については、学校による調査研究はなし。専門部会の調査結果をもとに5名がふさわしいと思う場合に○と記入。

	発行者略称番号	発行者略称略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称略称	学校結果	選定委員会
国語 (国語)	2	東書	18	18	17	教出	18	18
	15	三省堂	18	20	38	光村	27	25

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
国語 (書写)	2	東書	18	23	17	教出	21	17
	15	三省堂	17	17	38	光村	24	23

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
社会 (地理的分野)	2	東書	26	25	46	帝国	22	21
	17	教出	16	18	116	日文	18	18

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
社会 (歴史的分野)	2	東書	27	25	225	自由社	13	16
	17	教出	17	19	227	育鵬社	14	15
	46	帝国	21	18	229	学び舎	12	13
	81	山川	16	16	236	令和	13	12
	116	日文	20	19				

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
社会 (公民的分野)	2	東書	26	25	116	日文	19	18
	17	教出	18	18	225	自由社	13	15
	46	帝国	20	20	227	育鵬社	15	16

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
社会(地図)	2	東書	21	20	46	帝国	24	25

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
数学	2	東書	22	24	61	啓林館	19	19
	4	大日本	16	18	104	数研	18	16
	11	学図	21	19	116	日文	17	16
	17	教出	18	18				

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
理 科	2	東書	21	20	17	教出	16	16
	4	大日本	18	16	61	啓林館	23	23
	11	学図	17	20				

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
音楽（一般）	17	教出	22	20	27	教芸	23	25

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
音楽（器楽）	17	教出	22	20	27	教芸	23	25

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
美 術	9	開隆堂	21	24	116	日文	20	19
	38	光村	23	22				

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
保健・体育	2	東書	20	19	50	大修館	22	21
	4	大日本図書	19	18	224	学研	22	25

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
技術・家庭 （技術分野）	2	東書	20	20	9	開隆堂	24	25
	6	教図	19	18				

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
技術・家庭 （家庭分野）	2	東書	23	22	9	開隆堂	21	25
	6	教図	21	18				

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
外国語 （英語）	2	東書	21	21	17	教出	18	16
	9	開隆堂	23	25	38	光村	18	17
	15	三省堂	19	19	61	啓林館	16	16

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
特別の教科 道 徳	2	東書	18	17	224	学研	19	17
	17	教出	18	17	232	あか図	18	18
	38	光村	17	16	233	日科	13	15
	116	日文	22	25				

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
こくご・国語 (特別支援)	2	東書	—	○

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
さんすう・数学 (特別支援)	17	教出	—	○

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
せいかつ (特別支援)	2	東書	—	○

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
おんがく・音楽 (特別支援)	2	東書	—	○

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
社会 (特別支援)	2	東書	—	○

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
理科 (特別支援)	2	東書	—	○

	発行者略称番号	発行者略称	学校結果	選定委員会
職業・家庭 (特別支援)	2	東書	—	○



書名 項目	新編 新しい国語	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の整理や関係について学ぶ「情報と論理の学び」が、「読むこと」の教材と「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材の間に配列されており、学んだことをすぐに活かすことができる構成となっている。</li> <li>○古典教材について、色彩豊かな絵巻や資料性の高い図版などの折り込み資料が用意され、朗読動画、コラム「資料」で深く理解し、鑑賞できるように工夫されているとともに、巻末資料に発展的・補足的教材が掲載されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読むこと」において学んだ力を、続く「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材ですぐ活かせるように配列が工夫され、3年間にわたって系統的・発展的に配置されている。</li> <li>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、キャラクターを活かして言語活動の各過程の具体例や完成作品例、対話例などが豊富に示されている。生徒の多様な思考・表現を支援できるように工夫されている。さらに QR コンテンツに具体例も用意されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材の初めにふきだしの形で目標が簡潔に示され、教材の後には「てびき」として見開き1ページで学び方が示されている。各単元に用意された「言葉の力」の枠で学習内容の観点が示され、QR コードで「読解のたすけ」も用意されている。「見通し一覧」で3年間の関連も確認できる。</li> <li>○QR コンテンツが豊富で、作者へのインタビューや朗読、デジタル資料室、言葉リスト、練習問題など、豊富なコンテンツが用意されている。</li> </ul> <p>&lt;言語感覚を豊かにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の言語文化について扱う「日本語探検」では共通した登場人物たちによるストーリー仕立てで示され、親しみやすくなっている。文法については導入において QR コンテンツ「文法ゲーム」が用意されており、操作しながら学ぶことができる。</li> </ul> <p>&lt;読書に親しむ態度を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○夏休み前は学年別でテーマに沿った本の紹介、冬休み前は4つのジャンルの作品の抜粋が掲載されているほか、著名人の読書体験のインタビュー、「読むこと」の教材ごとの「読書案内」など、全体で422冊の本の紹介がある。</li> <li>○1年で図書館の活用やポップ作り、2年でビブリオバトル、3年で読書会や私のベストブック紹介が設けられ、全学年に読書活動が配列されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○QR コンテンツの拡充等により積極的に軽量化が図られ、現行の教科書から各学年30ページ、3学年全体で100ページ以上の削減を達成している。</li> <li>○全体を通して用いられているキャラクターは、ジェンダーレス制服や左利き、さまざまなルーツなどを想定しており、多様性に配慮している。</li> <li>○「未来を考えるための9つのテーマ」が3領域の学習と関連させて示されているとともに、各学年に「未来への扉」として新教材も用意されている。巻末に古典作品や関係する文章、学習内容・QR コンテンツの一覧表等が用意されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「読む」は橙、「情報」は紫、「書く」は緑など、学習領域によってページの左上の見出しや全体の色使いが色分けされているほか、「5、10、15」と「・」で行数を示しているなど、UDに配慮している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学び方」がひと目で分かるとともに、豊富な資料を用いて自ら学びを調整でき、「未来を考える」ことを通して「言葉の力」を養うことができる構成となっている。</li> </ul>	

書名 項目	現代の国語	15 三省堂
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt; ○情報の扱い方に関する単元が各学年で特設され、グラフと図表の情報を文章に関連づけて現代社会の課題について考えを深め、グローバル社会で生きる資質・能力を育成する工夫がされている。 ○「学びの道しるべ」の QR コードを参照することにより、他の章段を読めるようにしたり、各学年の資料「読書の広場」に、声に出して親しめる古典芸能作品が紹介されたりしている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt; ○「話すこと・聞くこと」について、「つなげる」「深める」「計画的に進める」「話し合いのこつ」を段階的に学年で動画を添えて学べるようになってきている。また、「書くこと」と関連した言語活動が設定され、表現力の伸長が図られるよう工夫されている。 ○「読むこと」では感性や想像力を育み、対話を通して考えを深める作品や、現代的な課題に向き合い、論理的思考力や批判的思考力を高める文章から、言葉で考え自分の考えを表現する力を高める「書くこと」の活動につながるよう設定されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt; ○学び方がわかるように、何をどのように学ぶのかを示した「学びの道しるべ」が各教材で設けられるとともに、巻末に「読み方を学ぼう」が一覧で整理され、振り返りを容易にしている。 ○各教材末にある「語彙を豊かに」で、「読むこと」では教材にある言葉をきっかけに多様な語句を取り上げ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では学習活動に即した表現例を多数、提示している。</p> <p>&lt;言語感覚を豊かにするための工夫&gt; ○「言葉発見」「文法の窓」「漢字の仕組み」「語彙の広がり」で語彙を質と量の両面から豊かにし、社会生活に生きる豊かな言葉の習得ができる工夫がされている。</p> <p>&lt;読書に親しむ態度を育成するための工夫&gt; ○読書への誘いとして「私の読書体験」「読書活動」「書籍紹介」「私の本棚」資料編「小さな図書館」「読書教材」を設定するとともに、QR コード先に「デジタルテキスト」と283点の書籍を紹介し、読書の意欲を喚起している。 ○「私が選ぶこの一冊」「ビブリオバトル」「ブックトーク」などの読書活動が配置され生徒の興味関心を広げ読書に取り組む態度が育つよう工夫がされている。</p>	
資 料	<p>○巻頭に「領域別教材一覧」が整理され、身に付けたい力を明確にしている。また課題解決過程において活用できる「思考の方法」が図解を用いて示されている。 ○巻末の資料編のなかに「学習用語辞典」が全学年で掲載され、国語の学習活動に役立つ用語を五十音順で、関連の深い教材と併せて示されている。 ○各教材の QR コードから参考資料や解説の動画・音声、漢字と文法の基礎的基本的な内容の確実な習得ができる「デジタルドリル」など500点以上のコンテンツが参照できる。</p>	
表記・表現	<p>○読みやすい「書体」、上段と下段で情報を明確に「区別」、見開きで完結する「レイアウト」、内容を視覚的に捉える随所の「図解」とすべての生徒が学びやすいUDを意識した表記・表現になっている。</p>	
総 括	<p>○「学び方」がわかり、学びをつなげ、何を学んだかが実感できるよう、内容と表記が工夫され、現代社会を生きるための力を付ける言語活動や教材文が掲載されている。</p>	

書名 項目	伝え合う言葉	17 教出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びナビ」という項目で、各分野の学習をする直前に、それに関連付けた内容の学習が入り、円滑に知識・技能が習得できる流れで学習できるように構成されている。また、「学びナビ」の中で、既習事項の確認もされ、学習の流れが確立しやすくなっている。</li> <li>○QR コードを随所に用いて、資料や関連事項等にアクセスしやすくなっている。また、言語事項の題材では、日常生活内での使用場面などを示し、言葉の機能に気付く導入を行っている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと・聞くこと」の教材では、課題解決のための「対話力」「コミュニケーション力」の育成のため、学習の流れが示され、見通しとゴールが明確になっている。</li> <li>○「書くこと」では、学習の流れとポイントを示して言語活動が設定されていることで、どのような力が身に付くかがわかりやすくなっている。また、「読むこと」では、文章の前にその題材がどのように書かれているかが示され、生徒が読みの観点をもって学習に取り組めるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「みちしるべ」では、重点的に取り組む課題と学習の流れが示され、何をどのように学ぶのか視覚的にもわかりやすく示され、取り組みやすくなっている。</li> <li>○「学びナビ」が各題材の前に配置されていることで、生徒が自ら見通しをもって学習に取り組めるようになっている。また、随所に SDGs との関連が示されている。</li> </ul> <p>&lt;言語感覚を豊かにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年において、「言葉の小窓」「文法の小窓」「漢字の広場」が設定されており、語彙を増やしながら、場面に応じた様々な言葉の使い方を学べる項目が用意されている。</li> </ul> <p>&lt;読書に親しむ態度を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書+「まなびリンク」により、1年105冊、2年133冊、3年96冊の本やテーマに関する図書が紹介されている。</li> <li>○各学年において、題材と図書館の活用や読書交流、情報の活用の仕方を関連させた読書活動が設定されており、生徒自身が主体的に読書に取り組めるようになっている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作家の生い立ちや、筆者の情報を記載することで、より興味をもって学習に取り組めるようになっている。取り上げられている作家は、多くの上級学校の学習で触れる人物になっている。</li> <li>○「まなびリンク」によって動画や画像資料がふんだんに盛り込まれており、「学びのチャレンジ」の項目では、全国学力・学習状況調査や PISA などを踏まえた内容が、問題演習的に学習できるようになっている。</li> <li>○「情報・メディアと表現」では、1・2年生では漫画やアニメなどの身近なものを題材とし、興味関心をもちやすく、3年生ではメディアリテラシーを主眼にした題材となっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UD フォントやカラーユニバーサルデザインが用いられ、個人差を問わず見やすく、また、表紙から挿絵に至るまで、ポップなデザインが用いられ、学習者が親しみやすくなっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の流れがわかりやすく、丁寧に示されており、主体的に学習に取り組めるように構成されている。また、未来を担う生徒たちが、将来向き合うことになる現代的な課題が多く取り上げられている。</li> </ul>	



書名 項目	国語	38 光村
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「思考のレッスン」「情報整理のレッスン」を設け、実践的に知識や技能を習得できるようにしている。また、QRコードで漢字や文法の練習問題に取り組みできるようにしている。</li> <li>○古典に親しませるため、コラムや資料、朗読音声を掲載している。1年では3年間を見通し、3年では巻末では高等学校で学習する古典を紹介し、円滑な接続を図ることができるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと・聞くこと」では、全教材にQRコードを付け、動画視聴することで、聴解力やコミュニケーション能力を高められるようにしている。対話・スピーチ・プレゼンテーション・合意形成の話し合いなど多彩な言語活動を取り入れている。「書くこと」では、QR「書くことのミニレッスン」で練習問題に挑戦できるようにしている。説明・レポート・案内文など多彩な言語活動を取り入れている。</li> <li>○QRコードからCBT形式で教科書問題や「国語の力試し」という発展問題に取り組みやすくなっており、生徒自身が成果と課題を自覚できるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材ごとに「学びの扉」で学習の見通しをもたせている。特に身に付けたい資質・能力については「学びのカギ」で示している。振り返りの自己評価も「何ができるようになったか」を自分の言葉で言語化することで資質・能力を定着させられるようにしている。</li> <li>○持続可能な社会の創り手を育むために、全学年に「情報×SDGs」を設置し、情報活用能力を養いながら、「災害時の情報収集」や「実用的な文章からの情報収集」など、主体的に考えられるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;言語感覚を豊かにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末資料に「語彙ブック」を付け、思考を広げたり語彙を豊かにしたりするのに役立てられるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;読書に親しむ態度を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読むこと」の教材ごとに「広がる読書」として関連図書が紹介されている。また、学年ごとに読書教材が2つ設定されている。</li> <li>○1年でポップ作り、読書会、読書記録、2年でブックトーク、読書ポスター作り、読みたい本リスト、3年でおすすめの本紹介、ブックレビューなど様々な読書活動が示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「学習の見通しをもとう」で領域別の身に付けたい力を他教科やSDGsと関連させている。「思考の地図」では場面や目的に応じた思考法を示している。巻末に「学びのカギ」、補充教材を掲載している。</li> <li>○ビジュアル資料を大幅に拡大し、古典資料を両観音開き構造で掲載するなど、迫力ある構成にしている。古典教材に年表を配置し、作品の成立時期がひと目でわかるようになっている。</li> <li>○QRコードから350以上のコンテンツを利用できるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文・漢字・小文字別に適切な書体を用いており、字詰め・行詰めも発達段階を考慮して読みやすくデザインしている。新出漢字は、脚注に1字で、行数・読み方が用例とともに示されている。使用頻度の高いものから学習できるように配当している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の手引きで学習の流れと身に付ける資質・能力を可視化している。「語彙ブック」で描写・思考に活用できる語彙を多数紹介している。QRコードでデジタル教材が多数収録され、個別最適な学びを実現できるよう配慮されている。</li> </ul>	

書名 項目	新しい書写		2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校までに学習したことがわかりやすくまとめられている。そして、中学校で新たに学ぶことに関して、「書写のかぎ」として、的確にまとめられている。6つの過程が設けられ、単元が展開されている。</li> <li>○毛筆では、穂先の動き等の基本点画の筆使いを朱墨と淡墨を用いて示されている。また、運筆動画は、真上からの撮影、速度の調節、ナレーション等、生徒の視点に立ってつくられている。「行書の4つの動き」について、わかりやすくまとめられているとともに、左利きの生徒への配慮もある。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つけよう」では、書体を比較し説明させたり、指でなぞって考えさせたりすることで、学習のポイントを意識できるよう構成されている。</li> <li>○「生活に広げよう」では、効果的な文字の選択や場面・相手の設定等、単元ごとの学習内容を生かして表現活動に取り組むことができるよう題材が設定されている。自分らしさを表現したり、より伝えやすくしたりするなどの意味や効果があることについて、教材を学びながら適切に身につくようにしている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が見通しを立てて主体的に学べるよう、基本単元は「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」で構成され、ポイントが「書写のかぎ」で示されている。</li> <li>○「振り返ろう」では、学習目標と連動した自己評価について、自分の言葉で説明し、話し合い活動を通して自らの学びを深められるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本点画を学ぶ際、「見つけよう」で硬筆から課題を意識させ、「確かめよう」で毛筆の点画の書き方を確かめるという学習の流れになっている。</li> <li>○「生かそう」という硬筆教材を設定し、毛筆で学んだ文字の配列や点画の連続・変化等を、硬筆で生かせるように毛筆と硬筆の関連が図られている。</li> </ul> <p>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「書写活用ブック」には、ポスターやリーフレットを始め、各教科や日常生活からの実例が多く取り上げられている。各学年、「生活に広げよう」という項目が設けられており、依頼状・お礼状の書き方等、生活の様々な場面を通して、日常生活との関わりが示されている。</li> </ul>		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「姿勢と筆記具の持ち方」について写真を使って解説されている。</li> <li>○「常用漢字表」「人名用漢字表」は楷書体と行書体が併記されている。</li> <li>○巻末の「書写活用ブック」で様々な書式や漢字表が取り上げられている。また、随所に写真図版と解説を交えたコラム「文字といっしょに」が設けられている。</li> <li>○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。姿勢と筆記具の持ち方・書写テスト・運筆動画等が見られるようになっている。</li> </ul>		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きページの右に学習目標と学習の流れ、左に教材文字が配されている。</li> <li>○中心事項について色を変えて記され、指でなぞって書く練習が加えられている。「始筆・送筆・終筆」が「とん・すう・ぴたっ」と示されており、運筆指導に対応している。</li> <li>○文末表現には「～しよう」「～だろうか」等の、丁寧で意欲を喚起する表現で統一されている。</li> </ul>		
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活や他教科などへ、書写での学びを生かすことができるよう題材が設定されている。</li> <li>○書写の知識や技能を身に付けられるよう、行書に特徴的な動きをパターン化し、「行書のまとめ」や「書写テスト」で繰り返し確かめ、定着を図るよう構成されている。</li> </ul>		

書名 項目	現代の書写	15 三省堂
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学年に応じた単元が展開されており、具体的な字形例で、書き方のポイントが示されている。7つの過程が設けられ、単元が展開されている。具体的な字形例を基に、書き方のポイントが示されている。</li> <li>○毛筆の筆使いに、筆圧・穂先の動きを朱墨・淡墨で示されている。行書の横に楷書の手本が並べて示され、学びの定着を図ることができるような工夫がされている。毛筆の筆使いが分かるように、筆圧・穂先の動きが朱墨・淡墨で示されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つけよう」という問いにより、書体を比較しながら学習のポイントを見つける等、単元の課題を意識しやすいよう工夫されている。</li> <li>○「やってみよう」で、場面に応じた効果的な文字の選択等、学習内容を生かして表現活動に取り組むことができるよう構成されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見通しを立てて学習に臨めるように、この単元で何を学ぶかが明確に示されている。生徒が主体的にポイントを捉え、見通しを立てて学習に臨めるよう基本単元が「書き方を学ぼう」「書いて身につけよう」で構成されている。</li> <li>○「振り返ろう」で、学習目標と連動した課題により、学んだことが実際に活用できるか書いて確認し、自らの言葉で記述できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○点画の種類と筆使いを毛筆で学んだ後で、「書いて身につけよう」という硬筆教材が設定され、毛筆と硬筆の関連を図られている。</li> <li>○毛筆で学んだことを硬筆に生かそうということで、古典や身の回りの様々な書式を硬筆で書く学習が取り入れられている。</li> </ul> <p>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年とも「やってみよう」というページで、情報誌や名言集等の作成など、学習が各教科や日常生活に生かせるような課題が設定されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「楷書・行書一覧表」では楷書体と行書体が併記されている。</li> <li>○巻末の「資料編」は「日常の書式」と「書写の広場」に分かれ、書き初め手本等が取り上げられている。</li> <li>○随所に写真図版と解説を交えたコラムが記載されている。</li> <li>○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。硬筆・毛筆の姿勢・運筆・コラム関連動画等が見られるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きページの右に学習目標と学習の流れ、左に教材文字が配されている。</li> <li>○学習の中心事項が文章で記されており、学習課題に結びつくような工夫がされている。</li> <li>○運筆指導に対応し「穂先」の説明では、筆の動きが見て分かるように示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学んだことを日常生活や他教科などで生かすことができるよう、様々な課題が設定されている。</li> <li>○「書いて身につけよう」では、学習したことを多様な場面で主体的に活用できる力を身に付けることができるよう構成されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">中学書写</h2>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8つの過程が設けられ、基礎・基本の定着を目指して単元が展開されている。「目標」が示され、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。</li> <li>○ 毛筆では、基本的な点画や穂先の動きを2色の薄墨で示されている。硬筆では「試し書き」をして「まとめ書きと応用」で熟語も一緒に学べるよう工夫されている。コラムから、書写に関する関連知識が習得できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「考えよう」の問いで、書体や文字同士を比較したりその差異を考えたりしながら、学習のポイントを意識できるよう構成されている。実際に書くだけでなく、お手本を習得させたい事項について考えるタイミングをもてるように工夫されている。</li> <li>○ 「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」で、各教科の書く活動と連動させ、学習内容を生かして表現活動に取り組むことができるよう構成されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本単元は「考えよう」「生かそう」で構成され、学習手順を明確化させることで、生徒自身がどのように学ぶか見通しが立てられるようになっている。</li> <li>○ 「振り返ろう」で、学習目標と連動した自己評価を「○=できた」「△=もう少し」の記号を書き込み、自らの学びを確認できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毛筆の学習単元においても、導入の段階で、硬筆で筆記することから始まるため、硬筆から毛筆への連続性がある。硬筆は「試し書き」という項目で、毛筆は「考えよう」という項目で、課題を発見・確認し、それを生かして硬筆の書き方を改めて学習する流れになっている。</li> <li>○ 基本点画を学習する単元の終末に、これまで毛筆で学習したことを硬筆で生かして書く学習を取り入れている。</li> </ul> <p><b>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学校生活に生かして書く」という項目が各単元に設けられており、本の帯やポスター、手紙の書き方等の学習が紹介され、書写と日常生活との関わりが具体的に示されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「姿勢と用具の使い方」について写真を使って解説されている。</li> <li>○ 巻末にある「漢字一覧表」は常用漢字を小・中学校ごとの部首別に楷書体と行書体が併記されている。</li> <li>○ 巻末で日常の書式を紹介した「書式の教室」や、「書き初め」手本等が取り上げられている。また、随所に写真図版と解説を交えたコラムが設けられている。</li> <li>○ QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。用具の準備や運筆等学習に役立つ動画が見られるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見開きの片方のページに学習目標と教材文字、もう一方のページに学習の流れが配されている。学習の中心事項について書き込み欄が設けられ、学習課題に結びつくよう工夫されている。</li> <li>○ 筆圧が「1の力、2の力、3の力」と示され、運筆指導に対応している。</li> <li>○ 基礎基本のページは少ない文章量で要点が端的に示されており、発展や資料ページについては詳細な説明がなされている。メリハリがついている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 半紙形を維持した紙面で教材文字に中心点を入れている。</li> <li>○ 各教材で、授業のはじめに「試し書き」で自分の課題に気付き、授業の終わりに「まとめ書き」で振り返り、「書く力」を身に付けるよう構成されている。</li> </ul>	

書名 項目	中学書写	38 光村
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;            ○6つの過程が設けられ、知識や技能の定着を目指す単元が展開されている。「目標」が示され、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。            ○毛筆では、筆使いや穂先の動きが濃淡のある朱墨と薄墨で示されており、画像と筆の図(筆の置き方等)を示すことで、運筆をイメージしやすくしている。毛筆の特徴や字形、行書の特徴について目標とともに細かく分けて単元を設けることで、知識及び技能がより定着できるよう工夫している。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;            ○「考えよう」の活動を通して、文字を観察することで文字の調和や字形について思考を深められるよう工夫されている。            ○「生かそう」で、場面や目的に応じた効果的な文字の選択について、演習を交えながら実生活に生かせるよう構成されている。「文字を使い分ける」の単元において、行書と楷書の使い分けを考える場面が設定されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;            ○各単元において「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3つのステップに分けて構成されており、生徒が見通しを立てて主体的に学習に取り組めるよう工夫してある。            ○「学習のカギ」が各単元に明示され、単元で学ぶポイントが分かりやすく工夫されている。</p> <p>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;            ○「確かめよう」で毛筆の運筆や行書の特徴を学んだあと、「生かそう」で硬筆による練習場면을設けている。            ○本編で毛筆の書き方を学んだ後、学習したことを日常に生かして硬筆で書く別冊「書写ブック」という教材が設けられ、毛筆と硬筆の関連を意識して練習する工夫がある。</p> <p>&lt;各教科や日常生活との関わり&gt;            ○「日常に役立つ書式」や「国語・学校生活」の項目では、冊子の書き方や職業ガイド新聞等の活用例が示され、書写と日常生活との関わりが示されている。</p>	
資 料	<p>○「中学書写スタートブック」では「姿勢・筆記具の持ち方」や「用具の準備・片付け」について写真を使って解説されている。            ○「常用漢字表」「人名用漢字表」は楷書体と行書体が併記されている。            ○巻末で「日常に役立つ書式」「書き初め手本」等が取り上げられている。また、随所にコラムが設けられ、写真図版と解説を交えて掲載されている。            ○QRコードを読み取ることで、用具の準備や運筆等学習に役立つ動画、アニメーションが見られるようになっている。</p>	
表記・表現	<p>○見開きで、学習の目標と学習の流れ、次ページに教材文字が配されている。学習の中心事項が文章で記され、学習課題に結びつくよう工夫されている。            ○「始筆・送筆・終筆」が「トン・スー・トン」や「ぴょん、ぴたっ」で示され、運筆指導に対応している。            ○学習のカギが示され、次ページに教材文字が示されている。</p>	
総 括	<p>○「中学書写スタートブック」「書き初めマスターブック」「別冊書写ブック」など複数の資料を使い分けることで生徒の学習段階や学習内容に合わせて学習活動を行うことができる。            ○国語の教科書と対応した教材が全学年で掲載され、国語の学習の際にも書写を生かしやすい構成になっている。</p>	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">新しい社会 地理</h2>	2 東 書
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○1 単位時間の始めには「学習課題」の提示がある。学習の終わりには基礎を確認する「チェック」と、要約や説明などをする「トライ」の2段階の問いがあり、学習課題を解決する過程で、学習内容を定着できるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○地理的な見方・考え方を、「探究課題」や「探究のステップ」、「学習課題」、「チェック&amp;トライ」に反映させている。地理学習全体を通じて「深い学び」が実現できるよう工夫されている。</p> <p>○「地域調査の手法」では地域を見るための視点が明示されている。その上で、地形図や地図記号、地理院地図について触れられており、位置や分布、空間的な規則性や傾向性を可視化しながら地域を見る技能を習得できるよう工夫されている。「地域の在り方」では、「課題をとらえる」「課題の要因や影響を考察する」「解決策を構想する」「地域の将来について表現・発信する」など、学習指導要領が目指す流れに沿って進めることができるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○単元の導入部では、世界の各州や日本の地域ごとに、取り組むべきテーマが提示されており、学習の見通しをもちやすくなっている。小学校の学習内容を振り返るなどの多様な活動を通して「探究課題」を立てることで学習内容への興味・関心を高めながら円滑に学習に入ることができるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>          ○学習の途中や、単元のまとめの活動の前に設けた「探究のステップ」を設定している。学習内容を振り返って整理することで、本文ページの学習の積み重ねを「探究課題の解決」へ円滑につなげられるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○各単元の導入部に、小学校社会科で学習した内容を用語や写真で振り返るページを設けることで、小・中の学習を円滑に接続できるよう工夫されている。</p> <p>○他教科と関連のある学習内容には、教科関連マークを付し、教科を横断した学習の確認ができるよう工夫されている。</p>	
表記・表現	<p>○文体は敬体で、重要語句は太字で示している。本文中に出てきた語句の補足として、側注に写真や図による資料を、巻末には用語解説を掲載している。</p> <p>○資料の掲載部分を文字などの読み取りに支障のない地色を敷いて区別している。紙面の構造を明確化し、特別支援教育の観点での学習のしやすさを向上させている。</p> <p>○小さな文字が読み取りにくい生徒に配慮し、読み取りやすいゴシック体の振り仮名を採用し、視認性を確保しながら黒色を抑えることで、紙面の雑然とした印象を軽減し、読み取りやすさを向上させている。</p>	
総 括	<p>○教科書の冒頭に、「地理的な見方・考え方」が整理されていることで、どのように教科書を活用していけば資質・能力を向上させていくことができるか明確に記されている。各中単元で提示される探求課題を解決に導くために、小単元が構成されているため、生徒の学習のストーリーを立てやすくなるよう構成されている。また、「まとめ活動」では、はじめに基礎・基本的な知識の復習が設定されている。次に「見方・考え方」を働かせながら、世界の諸地域や日本の各地方の学習内容に関して調整できるよう構成されている。そのため、探求課題の解決に向かうことができるように工夫されている。個人の学習とグループ学習とを織り交ぜ、学習内容を関連づけていくことによって多面的・多角的に思考・判断・表現することができるように工夫されている。</p>	

書名 項目	中学社会 地理 地域にまなぶ	17 教出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○「学習のまとめと表現」が章・節の最後に設けられている。また、難解な用語や補足説明が必要な事項には、側注・巻末に丁寧な用語解説が掲載されており、学習内容を振り返り、基礎・基本の定着を図ることができるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○巻頭2では、「地理的な見方・考え方」の例が提示されている。また、各章の最初のページに「見方・考え方」が明示されており、単元で扱う題材の中で何に注目して学習していくべきかが明確になっている。これを活用することで深い学びにつなげることができるよう工夫されている。</p> <p>○各章の「学習のまとめと表現」に、グループでの対話的な活動を想定した多様な問いを示している。また、終章「地域のあり方」では、地理の学習を通して身に付けた力を総動員して取り組み、地域の課題の解決に向けた提案活動の例を紹介してあるなど、対話的な学びが促されるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○各ページに「確認」という項目があり、1単位時間で学習した内容を活用して解決するような課題が設定されている。これによって、学習調整を図ることができるように工夫されている。</p> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <p>○巻頭ページには、「地理の学習を進めるにあたって…」という項目があり、本教科書にける学習の流れ（1 導入→2…をながめて→3 本編→4 学習のまとめと表現）を参考にすることで、見通しをもった学習を行うことができるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○教科書に準拠した指導者用デジタル教科書、学習者用デジタル教科書（+教材）を発行している。</p> <p>○指導者用デジタル教科書、学習者用デジタル教科書の教材版には動画、アニメーション、フラッシュ型教材などの各種のコンテンツや機能が備わっている。</p>	
表記・表現	<p>○本文は見開き2ページで1単位時間扱いであり、見開き単位で資料に通し番号を示すことで、資料と本文との関係を理解しやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーUDに基づく配色となっている。紙面でもデジタル画面でも見やすく読みやすいUDフォントを使用している。</p>	
総 括	<p>○「卒業後も何度も見返したくなる教科書」を目指しており、SDGsの目標を視点にしながら学習を進めることができるよう工夫されている。各節を貫く課題やSDGsに示された目標を視点にして学習を広げたり深めたりする特設ページ「クロスロード」が設定されており、「人権・多文化共生」「環境、資源・エネルギー」「伝統・文化」「情報」「防災・安全」「領土」に関する記事が掲載されている。社会の諸課題を捉え、その解決に向けて協働しながら多面的・多角的に考察し、持続可能な社会の創り手の育成を目指すような作りとなっている。また、世界の諸地域のまとめにおいては、基礎・基本的な知識の復習や思考ツールが設定されているため、学習調整や、「見方・考え方」を働かせながら価値判断を行うことができる。日本の諸地域においては、お互いの地域がどのように関係しているのかを問う課題や、地域の将来について考える課題が設定されているので、深い学びにつなげることができるよう工夫されている。</p>	

書名 項目	社会科 中学生の地理	4 6 帝 国
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○本文は接続語などが平易な表現でまとめられており、内容が理解しやすくなるよう工夫されている。また、各見開きページの最後には「確認しよう・説明しよう」が設けられているため、学習内容の復習がしやすくなるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○写真や図版、本文が密接に関連しているため、地理的事象の背景や因果関係を読み取ることができ、「地理的な見方・考え方」を自然と働かせられるよう工夫されている。</p> <p>○各章・節末の「学習を振り返ろう」では、章・節の学習で得た知識を生かして「地理的な見方・考え方」を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考ツールを用いて、自分の考えを整理・構造化できるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○各節のはじめには、その地域を象徴する写真資料を掲載すると共に、キャラクター達の吹き出しにある言葉によって、学習者の疑問が想起されるよう工夫されている。また見通しスライドの掲載や、見開きの右側にある「確認しよう」によって、学習調整がはかりやすくなるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>                      ○各節ごとの問いを解決するためのプロセスとして、各見開きの問いが設定されている。問いが構造化されていることで、学習者が地域を大きな視点で捉え、解決に向かっていけるよう工夫されている。</p> <p>○「学習を振り返ろう」では、単元を貫く問いや当該単元で用いるべき見方・考え方が提示されている。見開き1ページのうち、左側には白地図等の基礎・基本的な語句の復習が設定されている。右側には、単元を貫く問いに対して、思考ツールを用いて自身の考えを整理し、考えを深めるために設定された問いに答える形で課題解決を図ることができるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○地域の姿や人々の営みを映し出す写真を厳選して掲載し、学びに向かう意欲を高められるよう工夫されている。背景や因果関係まで丁寧に書かれた本文と、本文に関連する資料により、生徒の知的好奇心を高められるよう工夫されている。</p> <p>○小学校での学習や他分野・他教科と関連のある題材に「小学校・歴史・公民・他教科の関連」や「小・歴・公の関連アイコン」を示し、既習事項を踏まえて、物事を多面的・多角的に捉える足がかりを設けている</p>	
表記・表現	<p>○図版に背景色や囲み線をつけるなどして図版と本文が区別しやすくなっている。文字は、読みやすいUDフォントが採用され、重要語句を示すゴシック体の太さやルビが見やすくなるよう工夫されている。</p> <p>○色覚特性に配慮した識別しやすい色づかいとなっており、図版に色以外からも情報を読み取れるようにしている。学習者用デジタル教科書が発行されており、ふりがなや音読、色の反転などの機能が加わっている。</p>	
総 括	<p>○各地域の学習が始まる際に、地球的課題や地域的特色が提示されているため、本質を捉える課題や学習活動を行いやすくなるよう構成されている。各章や各節のはじめに問いが設定されており、各節の最後「学習を振り返ろう」にて、問いを解決するための活動が設定されているため、指導と評価の一体化が図りやすくなるよう工夫されている。地理的分野のまとめとして、「地域の在り方」が設定されており「テーマ設定、調査、課題の考察、解決策の構想、解決策の提案」の一連の流れと方法が示されており、持続可能な社会の実現に向けた探究活動に取り組めるよう構成されている。</p>	



書名 項目	中学社会 地理的分野	116 日 文
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○各地域の特色が理解できるよう、グラフや写真資料が充実している。また、学習課題と対応した「確認・表現コーナー」が設けられており、本文ページの学習を確かめるための問いが設定されている。基礎・基本的な知識・技能が確実に定着されるよう工夫されている。                 </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○各節には必ず「見方・考え方」が掲載されているため、地理的な視点をもって考察することができるよう工夫されている。また、生徒同士の話し合いなど、対話的な活動が効果的な場面においては、それを促すために「学び合いマーク」が設定されている。                 </p> <p>                     ○地域を見るための視点が明示されている。「地域調査の手法」では、地形図や地図記号について触れられており、位置や分布に着目しながら地域を見る技能を習得できるよう工夫されている。「地域の在り方」では、「テーマ決定」「課題の要因を考察」「解決策の構想」「地域の将来について表現する」など、持続可能な社会の創り手を育成することができるよう工夫されている。                 </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○各編・章・節の導入において、生徒が自ら課題を立て、単元の学習の見通しをもって各時間の学習課題に取り組むよう構成されているため、学習調整を行いやすい構成となっている。                 </p> <p> <b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>                      ○各編・章・節において、生徒が立てた問いの解決に向け、学習課題を追究していき、「まとめと振り返り」において学習内容をまとめ、議論しながら振り返ることで学びを深めることができるよう工夫されている。                 </p> <p>                     ○「まとめと振り返り」では、単元を貫く問いや当該単元で用いるべき見方・考え方が提示されている。見開き1ページのうち、左側には白地図等の基礎・基本的な語句の復習が設定されている。右側には、単元を貫く問いに対して、思考ツールを用いて自身の考えを整理し、考えを深めるために設定された問いに答える形で課題解決を図ることができるよう工夫されている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○「カーボンニュートラル」「Society5.0」「防災・減災」「環境問題・環境保全」など、持続可能な社会に関連する内容を掲載し、教科書全体を通して持続可能な社会について考察できるよう工夫されている。                 </p> <p>                     ○内容の配列は「世界と日本の地域構成」「世界のさまざまな地域」「日本のさまざまな地域」の3編で構成され、109時間で完結できるようになっている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○教科書全体を通して視認性の高いユニバーサルデザインフォントを使用し、振り仮名には判読しやすいゴシック体を使用している。また、グラフ・地図の図版は、色覚に特性のある生徒も読み取りやすくなるように配慮されている。                 </p> <p>                     ○AB版を採用し、写真等の図版を大きく示すことで生徒の興味・関心を高めやすくなるよう工夫されている。左右のスペースにグラフや各種資料を掲載して本文内容補完ができるよう工夫されている。                 </p>	
総 括	<p>                     ○教科書全体を通して「単元全体の問いを立てる」→「本時の問いを解決できるよう学習を進める」→「まとめにおいて、学習を振り返ると共に地球的課題や地域的特色を理解する」ことができるよう編集されている。学習者が「何ができるようになるか」を見通し「何を学んでいるのか」が捉えやすくなるよう工夫されている。地理的分野の仕上げである「地域の在り方」では、追求の流れが明確に記載されているほか、地域の実態にあった考察、構想、表現となるよう、様々なヒントが散りばめられており、持続可能な社会の実現に向けた探究活動に取り組めるよう構成されている。                 </p>	

書名 項目	新しい社会 歴史	2 東 書
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○授業ごとの「チェック」「トライ」に取り組むことで、1時間ごとの学習課題に迫ることができるよう工夫されている。                      ○「スキル・アップ」を順に追っていくことで資料読み取りや調査活動の技能を身につけられるようになっている。  <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○単元のまとめに思考ツールが活用できるようになっており、自分の考えを整理し、表現しやすくなるように工夫されている。                      ○節ごとに「みんなでチャレンジ」の課題が設定されており、議論したり多様な意見を聞くトレーニングしたりでき、協働的な学びができるようになっている。                      ○章末の「ふり返ろう」では、探究課題を確認しながら、歴史的な見方・考え方を働かせて思考・判断できるように工夫されている。  <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○「地域の歴史を調べよう」という学習活動が設定され、自分が生活する地域の歴史への興味・関心を持たせるよう構成されている。                      ○「もっと知りたい」コーナーは現代社会の課題に通じる話題を取り上げ、歴史と現代とのつながりを感じさせ、主体的に課題に取り組めるようになっている。  <b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>                      ○各時代の導入に小学校の振り返りとグループでの協働的な活動が設けられ、単元全体を貫く「探究課題」を立て、学習に見通しをもたせるよう工夫されている。                      ○単元ごとに、探究のステップとして小単元の課題が設定されており、課題を追究する活動の見通しが立つよう工夫されている。                      ○「みんなでチャレンジ」では、個人とグループ活動の相互作用で学びを深め、積極的に社会参画したり、他者と協働したりしながら、よりよい社会を築こうとする意識や態度を養えるように工夫されている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○資料の数が多し。多様なきっかけで授業に入れる工夫や、多様な角度から学習内容に迫る工夫。                      ○資料と本文の違いがわかりやすく色別で示されている。                      ○巻末年表は、世界との関わりの中での日本の歴史を一気に確認できる。                      ○導入資料と学習課題の関係・・・導入資料を活用した学習課題への答えが作りやすいよう工夫されている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○本文の分量はおおむねページの2分の1以下に抑えられているため、文章量への負担感が少なくなるよう工夫されている。                      ○文章資料のフォントはUDを使っており、しっかり読み取れるよう工夫されている。                      ○見開きの右端に時期を示すスケールが入れられている。また、地理や公民の学習と関連が深い内容には、関連マークが付けられている。                 </p>	
総 括	<p>                     ○巻頭に、歴史を学ぶ意義として、「持続可能な社会の実現のために歴史から学ぶ」という理念が示されている。また、章の構成として、「課題をつかむ→課題を追究する→課題を解決する」という流れがつけられ、課題解決的な学習の手助けになるよう工夫されている。                      ○多様なデジタルコンテンツが活用でき、学びの幅が広がり、主体的に学習に取り組めるように配慮されている。                      ○授業ごとの学習課題は「どのように」「どのような」という問いで貫かれており、「持続可能な社会の形成者」としての学習者に示唆を与える作りとなっている。                 </p>	

項目	書名 中学社会 歴史 未来をひらく	17 教出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業ごとの「確認」「表現」に取り組むことで、1時間ごとの基本的な知識の定着を確認することができるよう工夫されている。</li> <li>○本文では、時代背景や国際関係などが比較的詳細に述べられ、しっかりと読み込むことで「推移」や「関連」といった見方がつかみやすいよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題に対して、教科書の資料や年表、地図などを活用する「表現」の課題が多く設定されている。</li> <li>○単元全体の導入資料とまとめのための資料を読み取る際の視点をいくつか例示し、時代区分ごとの社会の特色を大きな視点でとらえられるよう工夫されている。</li> <li>○章末の「HOP・STEP・JUMP」では学習した内容を判断して活用する能力を高め、歴史的な見方・考え方を深めるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭での「学習の進め方」において教科書の読み方のポイント、ゲーム形式の学習の例、教科を横断した見方の例を示すことで、学習の深まりや広がりにつながるよう工夫されている。</li> <li>○「歴史学習の終わりに」のページでは社会的な課題の解決に向けてSDGsの目標を参考にテーマを設定する等の構成になっている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の導入「学習のはじめに」では、その時代を象徴するような資料とそれに関わる問いが示され、見通しをもって学習が進められるように工夫されている。</li> <li>○節をとらえる文章表現課題が設定され、キーワードを用いたまとめを繰り返すことで、単元を貫く課題の答えに導かれるよう工夫されている。</li> <li>○本文とは視点を変えて捉え直す「特設ページ」が設けられ、現代社会の諸課題と照らし合わせ、多面的・多角的に考察できるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実物の写真資料が多く採用されており、生徒の学習意欲が高められるようになっている。</li> <li>○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。小学校での既習事項を生かせる工夫がされている。</li> <li>○教科書とウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つ様々な情報を得ることができる「まなびリンク」が設けられている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カラーUDが採用され、色覚の個人差を問わず見やすい色使いがされている。</li> <li>○文章のフォントはUDを使っており、しっかり読み取れるよう工夫されている。</li> <li>○本文には解説や注釈が多く、理解の助けになっている。</li> <li>○見開きに「時代スケール」として学習する時代の範囲を色で表し、小学校で学習した人物・中学校で学習する人物が識別できるように工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史的な見方・考え方が「時期や推移」「比較」「関連」の3種類に整理されていて、生徒にとって理解しやすい構成になっている。</li> <li>○単元ごとのタイトルに工夫が見られ、学習内容をイメージしたりまとめたりしやすくなっている。</li> <li>○教科書全体を通して、見直し・振り返りの学習活動に取り組みやすい内容となっており、より深い理解ができるように工夫されている。</li> <li>○授業ごとの学習課題は「どのように」「どのような」という問いで貫かれており、「持続可能な社会の形成者」としての学習者に示唆を与える作りとなっている。</li> </ul>	

書名 項目	社会科 中学生の歴史	46 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">帝 国</span>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○生徒一人一人が年表を活用して、生徒それぞれのペースで時代の特徴を捉えることができるよう工夫されている。                      ○教科書の見開き2ページの使い方が丁寧に示され、導入資料、学習課題が分かりやすくなっている。さらに、「確認しよう」が見開きのまとめに設定され、知識の定着につながるよう工夫されている。                 </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○章のはじめに設けられた「タイムトラベル」では、資料から判断して、論理的に説明できるよう工夫されている。                      ○単元のまとめに、対話によって単元を貫く問いを考察する活動が設定されており、自分の考えを表現したり他者の考えと比較したりできるよう工夫されている。                      ○単元のまとめで「タイムトラベル」を活用して歴史的な見方・考え方を活かす活動を取り入れ、考えが深まるよう工夫されている。                 </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○単元の導入で、これから学習する時代の見通しを立て、単元のまとめの段階で、考えの深まりを確認する課題が設定されている。                      ○地図とイラストによる世界地図「世界とのつながりを考えよう 地図編」では、日本の歴史的事象や人物が世界の中に位置付けて見られるように提示されている。                 </p> <p> <b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>                      ○各単元の最後に、学習内容をこれからの社会の構想につなげる活動を取り入れており、課題解決的な学習を通して、深い学びにつながるよう工夫されている。                      ○「学習を振り返ろう」では、見開きから節、節から章へと段階的に振り返りを行い、学習を積み重ねて課題追究ができるように構成されている。                      ○巻末「これからの社会を構想しよう」への準備として、各章で「現在・SDGs」とのつながりを考え、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○紙面を大きく使ったイラストの資料が多用され、それぞれの時代の社会の様子や人々の活動がつかみやすい工夫がされている。                      ○写真や絵画、イラスト資料には注釈や補足情報が多く挿入され、読み取りやすいよう工夫されている。                      ○QRコードを読み込むことで、「タイムトラベル」コンテンツにアクセスしたり、学習の理解を助ける動画等を閲覧できたりするように工夫されている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○文章のフォントはUDを使っており、読み取りやすいよう工夫されている。                      ○見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。学習課題と学習内容を確認・説明するための課題が示され、見通しが持ちやすくなっている。                      ○見開きの右端に「時代インデックス」が掲載され、巻頭の日本の歴史年表・巻末の世界史年表と照らし合わせて確認するように工夫されている。                      ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。                 </p>	
総 括	<p>                     ○教科書の使い方を丁寧に示し、思考ツールの紹介、単元を見通した学習活動の展開例、イラスト資料を活用した「タイムトラベル」、大きな地図で世界とのつながりを考えるページなど、生徒が主体的に学べるような様々な工夫が見られる。                      ○「未来を構想するための歴史学習」という考えが貫かれており、生徒たちは、常に見通しをもって学習することができるようになっている。                      ○その時代の舞台の解説や現在との共通点や違いを確認できるので、多面的・多角的な視点をもって学習に入ることができるように配慮されている。                 </p>	

書名 項目	中学歴史 日本と世界	81 山川
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○用語の解説が細かく、詳しく書かれている。本文も、出来事の背景や展開などを詳細に記述している。</li> <li>○見開きのまとめ「ステップアップ」では、1単位時間で行った内容を整理し、歴史的知識の定着が図れる構成となっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域からのアプローチ」では、資料やグラフから自分の考えを表現させ、歴史的な事象を多面的・多角的に考察できるように工夫されている。</li> <li>○「歴史へのアプローチ」では、1単位時間で行う内容の中で、テーマを絞ることで、歴史的な見方・考え方を深められるよう工夫がされている。</li> <li>○単元のまとめを、多角的な視点や多面的な視点が示され、生徒が考え方の視点をもってまとめ方ができるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元ごとに、「〇〇世紀の世界」というページがあり、その地代の世界の様子を体感できる。世界の中の日本という視点を持ちやすく、現代的な視点とのつながりが感じられる工夫がされている。</li> <li>○高等学校の歴史学習とのつながりを意識して、歴史的な事象の要因と結果を詳細に記述し、コラムと合わせてより深い理解を出来るように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「身近な地域の調査」の単元では、生徒たちが主体的に探究的な学習活動に取り組めるように、調査の順序や注意事項が示されている。</li> <li>○学習の見通しをもてるように、各章の冒頭に視覚的に歴史の流れをつかめるような資料を用いたり、見開きの冒頭に学習課題が明示されたりしている。</li> <li>○「歴史を考えよう」や「地域からのアプローチ」では、史料の細部に注目したり、発掘調査の結果を踏まえたりすることで、多角的に課題を追究できるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文と連動したイラストや資料が多く、生徒たちにとってイメージを持ちやすいようになっている。</li> <li>○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。</li> <li>○QRコードがついており、博物館・資料館のホームページサイトや動画を見る等、デジタルコンテンツを活用し課題を追究した学習ができるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章資料のフォントはUDを使っており、多様な学習者に配慮している。</li> <li>○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに「ステップアップ」の発問が示され、見通しをもつための学習課題と課題追究のため工夫されている。</li> <li>○各章のはじめに、章で学ぶ時代の日本と世界の出来事の帯年表が掲載されている。また、章に関係する写真が上下に分けて時代順に示されている。</li> <li>○本文は常体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史を学ぶ力を養うために、豊富で多様な発問で考える力を養えるように工夫されている。</li> <li>○因果関係を重視した詳しい記述や世界の歴史に関する充実した内容となっており、理解しやすい構成になっている。</li> <li>○生徒が主体的に学べるよう、見通しを持ちやすい工夫が様々な設定されている。</li> </ul>	

書名 項目	中学社会 歴史的分野	116 目 文
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○授業ごとの「確認」「表現」に取り組むことで、1時間ごとの基本的な知識の定着を確認することができるよう工夫されている。                      ○いずれの単元でも導入とまとめにおいて年表と地図を用いており、時系列という見方とともに、世界との関わりを常に意識しながら時代を大観できるよう工夫されている。                 </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○授業の学習課題ごとに、働かせてほしい見方・考え方の例が明示されており、教師も生徒も、常に課題を意識できるよう工夫されている。                      ○単元全体の導入資料を用いて読み取りと話し合いを行う構成となっており、多様な意見をもとに学習課題に迫るための工夫がされている。                      ○各章の振り返りでは、STEP 1 から 3 と分けられていて、思考ツールを活用することで思考、判断、表現ができるよう工夫されている。                 </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○「先人に学ぶ」「地域に学ぶ」などのコラムが SDGs との関連も示された上で多く掲載されており、歴史的事象と現代的な課題とのつながりが感じ取れるよう工夫されている。                      ○歴史について「考える活動」を充実させるため、資料を読み取り、資料を選択させて生徒の興味に応じた活動ができるような取組が提示されている。                 </p> <p> <b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>                      ○クラウド上でポートフォリオを作成することができ、学びの跡を積み重ねることができるよう工夫されている。                      ○各時代の導入では、年表や世界地図を使った時間軸と空間軸から時代を概観し、「単元を貫く問い」を明示して学習の見通しをもてるように工夫されている。                      ○歴史の学習の最後「『歴史との対話』を未来に活かす」では、課題の解決に向けて歴史を踏まえて未来を考える学習活動が設けられている。                 </p>	
資 料	<p>○教科書 QR コンテンツが充実している。動画によって小単元の課題の解決に見通しを持たせる工夫がされている。</p> <p>○導入資料は背景が色付けされてとくに強調されている。</p> <p>○地図資料や系図、仕組み図などは色遣いが鮮やかで、はっきりと読み取れるよう工夫されている。</p>	
表記・表現	<p>○デジタルコンテンツが充実しているため、教科書が見やすく整理されている。</p> <p>○文章のフォントは UD を使っており、多様な生徒にとって読み取れるよう工夫されている。</p> <p>○本文には平易な表現を用い、文献資料の現代語訳も、わかりやすい表現を使っている。</p> <p>○見開きの右端に学習している「時代」を色で示した年表が掲載されている。見開きの下部には小学校で学習した人物や地理・公民との連携が示されている。</p>	
総 括	<p>○巻頭の「教科書の構成と学び方」では教科書の使い方が詳しく示されている。</p> <p>○編の構成として、「問を立て、学習を見通す→問を追及する→まとめ、振り返る」という流れができ、課題解決的な学習の手助けになるよう工夫されている。</p> <p>○多様なデジタルコンテンツが活用でき、学びの幅が広がる。効果的に ICT を生かせるよう工夫されている。</p> <p>○授業ごとの学習課題は「どのように」「どのような」という問いで貫かれており、「持続可能な社会の形成者」としての学習者に示唆を与える作りとなっている。</p>	

書名 項目	新しい歴史 教科書	225 自由社
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各回に、学習した知識を整理する「チャレンジ」が設けられ、知識の定着が図られるような設定になっている。</li> <li>○各章の最後に、復習問題を解くページが用意されており、知識技能が習得しやすくなるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調べ学習のページでは、イラストの人物から、学習を深めるためのヒントが提示され、個人での活動だけでなく、他者と活動しやすい工夫がされている。</li> <li>○時代の特徴を考えるページでは、人物を比較する問題やいくつかの資料を基にひとこと作文を作成する問題を解くことによって、思考力、判断力、表現力を育成することができる。</li> <li>○「対話とまとめ図のページ」では、相互の関連や現在のつながり等に着目し、歴史的事象に対する思考力・判断力・表現力を深める工夫がされている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人物コラムが多数掲載され、「人物を通して時代をとらえる」では、生徒が伝記を作ることで、人物を通して歴史をとらえる工夫がされている。</li> <li>○外の目から見た日本、もっと知りたいコラムなど、随所に一步踏み込んだ場面が設けられており、具体的なイメージがつきやすくなっている。</li> </ul> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各時代の導入では、小学校の振り返りから時代を概観し、その時代を象徴するような資料を明示して学習の見通しをもてるように工夫されている。</li> <li>○最初に学習課題が明示され、途中の吹き出しで生徒の思考を揺さぶる課題が加えられている。また、最後に「チャレンジ」があり、課題を自分の言葉でまとめる部分がある。</li> <li>○日本の歴史の特色をとらえるために、「調べ学習」「対話とまとめ図」が設けられており、歴史に関わる諸事情の課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの上部に写真が大きく掲載されている。</li> <li>○本文を補足するための詳しい説明が、各ページに設けられている。</li> <li>○ページごとに写真、統計、系図等の資料がある。また、資料の近くには、資料を深く読み取るためのヒントが書かれている。</li> <li>○資料に通し番号がつけられており、本文の部分にも番号がついているので、資料が見つかりやすい工夫がされている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文等には、UD フォントが使用されている。</li> <li>○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。</li> <li>○ページの下部に、見開きで学習している時代を示すスケールが入れられている。また、地理や公民の学習と関連が深い内容には、関連マークが付けられている。</li> <li>○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面は AB 判が採用されている。</li> <li>○「もっと知りたいコラム」「人物クローズアップ」が随所に設けられており、生徒の興味関心を高め、主体的に学習したり、協働的な学びができたりするように工夫されている。</li> <li>○学習課題が明示されているため、生徒は問題解決的学習に取り組みやすい。また資料等で生徒の思考を揺さぶる課題が加えられており、発展的な学習につながるよう工夫されている。</li> </ul>	

<p>書名 項目</p>	<h2 style="margin: 0;">新しい日本の歴史</h2>	<p>227 育鵬社</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                  ○見開きを1単位時間としており、「つかむ」「調べる」「まとめる」の流れで構成されているため、知識が習得しやすくなっている。                  ○課題、確認、探求が1単位時間ごとに設定されているため、細かく復習ができるように工夫されている。                  ○「歴史ズームイン」、「地域の歴史を調べてみよう」が設けられており、活動を通して、社会的な技能を高める工夫がされている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                  ○「見方・考え方」のコラムでは、グラフを読み取る力や論述する力を高めるため、発問の工夫がされている。                  ○1単位時間ごとに、見方・考え方が設けられており、資料を読み取ったり、論述したりする力を養うことができる。                  ○歴史学習に必要な情報を集めたり、読み取ったり、まとめたりする資料活用能力を育成し、定着できるようになっている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                  ○「つかむ」「調べる」「まとめる・表現する」という問題解決型の学習を促す、「学びのナビゲーション」が本文で取り入れられており、主体的・対話的で深い学びが実現されるようになっている。                  ○「私の歴史博物館をデザインしてみよう」では、生徒自身が博物館の学芸員になったつもりで展示方法を考え、時代の特色がつかめるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>                  ○生徒に課題認識をさせる吹き出しが各見開きページに設定されているため、課題をとらえやすく、主体的に学べることができるように工夫されている。                  ○各章冒頭の「〇〇の世界へようこそ！」では、課題と主体的に向き合うための設問が設けられ、歴史に関わる諸事象についての課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。                  ○巻末「歴史学習のまとめ」では、学習した内容を活用して、日本の歴史を大観し、表現する学習活動が設けられている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○目次と各章の冒頭に二次元コードがついており、学習内容に関連する動画を視聴したり、情報を収集したりすることができるようになっている。                  ○日本の美の形、歴史絵巻、人物クローズアップでは、生徒が視覚的に興味をもって取り組むことができるように工夫されている。                  ○各ページに、本文の理解を助けるための写真、地図、統計資料等が掲載されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○図版は色覚特性を踏まえた判別しやすい色になっている。                  ○文字はUDフォントが使用され、ふりがなには読みやすいゴシック体が使われている。                  ○鳥の目、虫の目など歴史を様々な角度から見るような表現が用いられている。                  ○各章の章末に「歴史絵巻」「歴史ものさし」が掲載され、歴史の大まかな流れと現在の学習範囲が確認できるようになっている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○教科書の紙面は、AB判が採用されている                  ○1単位時間ごとに学ぶことが明確化されており、教科書全体を通して、「学びのナビゲーション」により、問題解決型の学習を実現できるよう工夫されている。                  ○カリキュラムマネジメントの視点から、歴史的分野、公民的分野との連携を図っている。</p>	



書名 項目	とともに学ぶ人間の歴史	229 学び舎
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きが1単位時間となっている。導入から学習課題をつかみ、本文を読んで最後にまとめるという学習の流れが分かりやすいため、知識の定着につながる。</li> <li>○「章の扉ページ」では、歴史的事象を地理と結びつけることにより、知識・技能の定着を図っている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「歴史を体験する」では、実際にその時代にいるかのような視点で考えることができるように資料が工夫されており、思考力・判断力を高める問が設定されている。</li> <li>○「章を振り返る」では、各章で学習してきた知識をもとに、設問を通して自分の言葉で表現できるようになっており、学んだ知識を活用できるように工夫されている。</li> <li>○「部の学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせ、各時代の特色を考察し、深い思考や表現につながる工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な人物を紹介するだけでなく、人々の生活や世の中での活躍を記述することにより、生徒の興味関心を引き出す工夫がされている。</li> <li>○各章の冒頭では、世界地図中に学習する時代の各地の様子や世界遺産等の写真や資料があり、時代を見渡して学ぶことができる。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各時代の導入として扉ページで各時代の学習課題が書かれており、資料を読み取って、時代の特徴を考えていく流れになっている。</li> <li>○歴史的に起こっている事象（特に現代史）と今日の社会との諸課題を結びつけ、よりよい日本の社会と世界の実現を視野に、主体的に探究・解決しようとする態度を養うことができる。</li> <li>○現代史の学習では、21世紀までテーマを設定し、歴史的事象を今日の社会と結びつけ、よりよい日本の社会と世界の実現を視野に、様々な社会の課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真などの資料が大きく示されている。色覚への配慮がある。</li> <li>○グラフ等の資料が随所に設けられており、歴史的事象や課題について、多面的・多角的に考察できるように工夫がされている。</li> <li>○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典や所蔵が掲載されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地図、グラフは色覚特性に配慮されている。</li> <li>○見開きの見出し、資料名はフォントが変えられており、目に止まりやすいように工夫がされている。</li> <li>○学習課題の言葉遣いが、生徒の記憶に残るようにシンプルかつ印象的に書かれている。</li> <li>○年表のページでは、世界の出来事と日本の出来事が比較しやすいように書かれている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面はA判が採用されている。</li> <li>○図版の配置や、本文の記述が見やすくまとまっている。また、国籍、性別等を問わず様々な人物をピックアップしているため、多様な視点で歴史を学ぶことができるように工夫されている。</li> <li>○全体を通して、疑問や問いが生まれやすいように図版や記述が工夫され、問題解決的な学習が行いやすいように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	国史教科書	236 令書
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○1 単位時間が2～5 ページ程度で、学習課題、本文、資料があって構成されている。欄外には資料の補足があり、理解を深められるようになっている。                      ○ページの上部、下部に注釈がついており、理解を深める工夫がされている。                      ○文献資料や写真、コラム等が適宜配置されており、具体的なイメージがしやすいように工夫されている。                 </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○「考えよう」が要所で設定されており、学習課題に迫るためのヒントとなっている。また、生徒同士で意見を交換できるような工夫がされている。                      ○章のまとめで文章を作成することにより、思考力、判断力、表現力を養うことができる。                      ○思考チャートを活用し歴史的な事象を多面的・多角的に捉え、思考を深められるよう工夫されている。                 </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○時代の流れをつかむための資料等が随所に配置されている。また、生徒が主体的に学ぶことができるようなイラストや記述が多く、歴史を体感的に学ぶことができるように工夫されている。                      ○日本の歴史や地域史に重点が置かれ、参考文献や地域の特産品の紹介等、生徒が地域や日本の文化伝統に興味を湧くような工夫がされている。                 </p> <p> <b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>                      ○各時代の導入では、学習の見通しをもてるように年表から時代を概観し、「政治・外交・文化・産業」の問いを示し、時代の特色を考えていく構成になっている。                      ○「field work」では、生徒が主体的に課題を追究し、多面的に考察できるように工夫されている。                      ○巻末「ディスカッション」では、将来の社会について、自分たちで何ができるかを主体的に考察し、様々な人の立場に立って考えることができるような工夫がされている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○1 単位時間ごとにコラムや文献が配置されているため、探究的な学習がしやすくなっている。                      ○本文の記述の中に、思考を深めるためのヒントが随所に書かれている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○章の始まる部分に、漫画のようなイラストが有り、時代の雰囲気がわかるようになっている。                      ○見開きの見出し、資料名、重要語句は太字で表記されている。見通しを持つための学習課題が提示されている。                      ○章末の年表では、日本の出来事（流れ）と世界の出来事が比較しやすいようにまとまっている。                      ○読書する楽しみを提示するため縦書きを採用し、小見出しにも「いろは順」が用いられている。                 </p>	
総 括	<p>                     ○縦書きで書かれており、内容が続けて書かれていることにより、歴史の流れが掴みやすくなっている。                      ○教科書の紙面はA5判が採用されている。                      ○縦書きで、1 単位時間ごとの区切りの表現が薄いので、1 冊の本を読む感覚で歴史を学ぶことができる。また、随所でコラムが配置されており、より理解が深まる工夫がされている。                 </p>	

書名 項目	新しい社会 公民	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章のはじめに身近な生活をテーマにした「導入の活動」が示されており、各章に設定される「探究課題（章を貫く問い）」は、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。</li> <li>○基礎的・基本的な技能を身に付ける「スキルアップ（9テーマ）」や、学習内容をさらに深めたり、広げたり、ちがう視点でとらえたりする「もっと知りたい！」が設けられている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、思考ツール等を用いて考えを整理し、探究課題の解決につなげる「深めよう」や、グループでの対話的な学びを実現する「みんなでチャレンジ（30テーマ）」が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章の最初に「探究課題」を示して見通しをもたせ、「まとめの活動（章を貫く問いの解決）」において思考ツールを使った学習内容の整理・解決により何を学んだのかを捉えられるよう工夫されている。</li> <li>○持続可能な社会の実現を意識できるように、現代的な諸課題を5つの視点で捉える3年間の社会科学習を貫くテーマが設定されている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章が課題解決的な学習のプロセスを可視化した、導入・展開・まとめの単元構成となっている。「探究課題（章ごと）」「探究のステップ（節ごと）」「学習課題（1時間ごと）」の3段階の問いを設定し、課題を追究・解決しやすくなるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の導入等に他分野・他教科との関連を示すマークが付され、多面的・多角的に学習を進められるよう工夫し、学習効果を高めようとしている。</li> <li>○QRコードやURLのリンクから、他分野・他教科の紙面確認や、動画が活用できるようになっている。</li> <li>○主権者意識を高め、主体的に社会に参画する態度を養うための「18歳へのステップ」コーナーや、対話的な活動「みんなでチャレンジ」等が設定されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の書体はUDフォントを採用し、資料の部分は本文との区別が視覚的に分かりやすくする地色を敷いて区別する等、見やすくなるような工夫がされている。</li> <li>○1単位時間の内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「未来にアクセス」等のコラムを活用し、課題解決に必要な情報を収集できるよう工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「単元の構成」で課題解決的な学習のプロセスが可視化され、学習課題、本文、資料、チェック&amp;トライ等、紙面の要素を定位置に配置することで、生徒が学習に取り組みやすい工夫がされている。</li> <li>○評価の観点に対応した「まとめの活動」が設定されている。</li> <li>○個人の学習とグループでの学習とを経て、意見を練り上げながら、多面的・多角的に思考・判断・表現することができるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h2>中学社会 公民 とともに生きる</h2>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の導入で学習テーマに関連する身近な例を写真やイラストで示して学習する際の視点を捉え、章末の「学習のまとめと表現」を行うことで個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。</li> <li>○技能や表現力を養うためのグループ活動等を紹介する「公民の技（9テーマ）」が設定されたり、資料を読み取る手掛かりとなる「THINK!」が適宜設定されたりしており、技能を身に付けられるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○より効果的に思考力、判断力、表現力等を育成するため、ディベート等の表現活動を行う「TRY」や、各章の最後に、思考ツールを活用して考察して表現する「学習のまとめと表現」が設定されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の「学習のまとめと表現」では、資料を基にした対話的な活動を通して課題解決に取り組むことで何を学んだのかを捉えられるよう工夫されている。</li> <li>○実社会の課題と向き合い、探究していくことで社会参画の意識が高まるように各章末の「JUMP！（未来のためにできること）」が設定されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の生活体験から出発する「ウォーミングアップ！公民」が各章の導入に設けられ、単元を貫く課題を捉え、見通しをもたせる工夫をしている。1単位時間ごとに学習課題を提示し、課題を追究・解決していくよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるために、「まなびリンク」からウェブサイトを紹介して関連サイトから情報や資料を収集することができるよう工夫されている。</li> <li>○見開きの左ページ上部に導入・中心資料が掲載され、資料と解説、キャラクターのコメントで資料の見方を示している。</li> <li>○学習内容を深化させるために「公民の窓」「SDGs 17テーマ」と関連付けた特設ページ等が設定されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の紙面は色覚等の特性を踏まえた配色や表現方法であるユニバーサルデザインを、書体にはUDフォントを採用し、学びやすくなるよう工夫されている。</li> <li>○内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「確認!」「表現!」を活用して、学習内容の確認と振り返りができるよう工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の学習のはじめに課題を捉え、見通しを立て、課題解決的な学習を積み重ね、まとめの学習で振り返り、考察する流れとなっている。</li> <li>○各章で意識させたい現代社会の見方・考え方をそれぞれの導入ページで示し、「学習のまとめと表現」のページで章の問いについて、見方・考え方を働かせながら考察できるよう工夫されている。</li> <li>○SDGsの視点が、公民の学習全体に関わる大切な視点として紹介されており、持続可能な社会の創り手の育成に向けた工夫がされている。</li> </ul>	

書名 項目	社会科 中学生の公民	46 帝 国
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の導入として「学習の前に」で日常の社会生活を鳥瞰したイラストを示し、そこから学習を開始するとともに、章末の「学習を振り返ろう」でもそのイラストを再度活用してまとめを行うことで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。</li> <li>○学習に必要な技能を習得する「技能をみがく (6テーマ)」や、資料を読み取る手がかりを示した「資料活用」の問いが適宜設定されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○思考力、判断力、表現力等を育成するため、具体的なテーマを設定した活動型の学習を行う「アクティブ公民」や単元を貫く問いを、思考ツールを活用して考察する「学習を振り返ろう」が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の「学習の前に」では学習内容を概観する導入や視点がイラストとともに示されており、章全体の見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○問いを軸とした構造化された単元構成であり、章末の「学習を振り返ろう」では、章の問いについて協働的に学習する場面が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章・節・各本文ページそれぞれの冒頭に問いを、末尾に課題を設けている。それぞれの問いと課題では、協働的に学習する場面が設定され、課題の追究・解決に向けて取り組めるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるために、QR コンテンツを利用することで、PC 等での資料の閲覧や関連動画の視聴、他分野教科書の参照、振り返りの解答確認ができるようになっている。</li> <li>○見開き左ページ上部に生徒の身近な事例等の写真やイラストが導入資料として掲載され、資料活用の視点とともに示されている。</li> <li>○学習内容を深化させるため、SDGs への意識を高める「未来に向けて」等が設定されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の紙面は色覚等の特性を踏まえ、カラーUD に配慮した色 調、書体には UD フォントを採用し、見やすく分かりやすい工夫がされている。</li> <li>○内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「確認しよう」「説明しよう」を活用して、学習内容の確認と振り返りができるよう工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元のはじめに、イラストを読み解く学習活動を通して単元の学びを見通し、単元のまとめで、思考ツールや対話的な学びを通して、節の問いや章の問いに取り組み、単元の学習を振り返る流れとなっている。</li> <li>○主体的・対話的で深い学びと指導の評価の一体化が実現しやすいように工夫されている。</li> <li>○「アクティブ公民」では、社会参画を疑似体験できるシミュレーション学習が設定されている。</li> </ul>	

書名 項目	中学社会 公民的分野	116 日 文
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の導入にある「学習のはじめに」で身近な生活の例を示し、章の問いを立て、章末の「まとめとふり返し」でその問いに答える活動を行うことで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>○情報の読み取り等を行う「情報スキルアップ（2テーマ）」や、資料を読み取る手がかりを示している「資料活用コーナー」が適宜設定されており、技能を身に付けられるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、現代社会の見方・考え方を働かせながら学習理解を深める「アクティビティ（41テーマ）」や、現代社会の課題について考察・構想をする「チャレンジ公民（5テーマ）」が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の導入では、その章の学習内容を概観する漫画が掲載されており、見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○身近な地域の抱える課題や将来について考え、社会に参画する手がかりを示し「明日に向かって（10テーマ）」が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の学習内容を活用し、現代社会の課題について考察、構想する活動として「チャレンジ公民」が設定されている。資料を基に多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて広い視野からの構想をする学習を行うことができるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるために、「教科書 QR コンテンツ」から、ポートフォリオ、イントロダクションムービー、確認小テスト等を利用できるようになっている。</li> <li>○見開きの左ページ上部に写真やイラスト、グラフ等の資料が掲載され、キャラクターのコメントで資料の見方が示されている。</li> <li>○学習内容の理解を深めたり、発展して考えたりするために「公民+α（22テーマ）」や「チャレンジ公民」等が設定されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の紙面はカラーユニバーサルデザインへ対応し、グラフ・地図等の図版の配色に配慮され、書体は UD フォントを採用し、学びやすくなるよう工夫されている。</li> <li>○内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「確認」「表現」を活用して、学習内容の確認と振り返りができるよう工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○構造的に「章の問い」や「節の問い」が設定され、その回答を行うコーナーやページがあり、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○「教科書 QR コンテンツ」には、構造的な問いに沿ったワークシート「ポートフォリオ」が用意されている。</li> <li>○公民を学ぶ楽しさを感じられるように、新しい事例や、生徒が身近に考えられる事例が掲載されている。</li> </ul>	

書名 項目	新しい公民教科書	225 自由社
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○単元最後の「ここがポイント！」において、授業でおさえるべき確認事項を示し、「アクティブに深めよう（9テーマ）」という特設ページで社会の仕組み等について考察することにより、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。                      ○学習内容を深めるための調べ学習や話合いの視点を示す「やってみよう」が適宜設定され、終章では「論文の書き方」等が示されており、技能を身に付けられるよう工夫されている。                 </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○思考力・表現力・表現力等を効果的に育成するため、各章最後にテーマを選択・考察し、表現する「学習の発展」や、現代社会の見方・考え方を働かせて考察する「アクティブに深めよう（9テーマ）」が設定されている。                 </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○各章の「学習のまとめと発展」では章の学習を発展させるためにテーマを選択し、既習事項を生かしてまとめることで何を学んだのかを捉えるよう工夫されている。                      ○重要なことがらを深く理解するために関連する単元に特設ページとして「もっと知りたい」というコラムが設定されている。                 </p> <p> <b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b>                      ○各単元のはじめに学習課題が設定され、さいごに授業でおさえるべき確認事項をまとめた「ここがポイント！」が示されている。これらの学習過程を通して基礎的・基本的な知識を習得させることを目指した学習に取り組めるよう工夫されている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○学習効果を高めるために、各単元の見開きには「ミニ知識」というコラムを設け、学習内容の理解をより深めようと工夫されている。                      ○重要な事柄を深く理解するために「もっと知りたい」という大きなコラムも関連する単元に特設ページとして掲載されている。                      ○学習内容を深化させるための調べ学習や話合い活動の視点を示した「アクティブに深めよう」や「やってみよう」等が設定されている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○全体の紙面は、ゴシック体を採用した重要語句が関連した単元に複数掲載されているなど、全体のつながりを意識して学習を進められるよう工夫されている。                      ○1単位時間の内容理解の補助として本文の周りに用語解説を設け、1単位時間の最後に内容を総括する記載があり、学習課題を解決できるよう工夫されている。                 </p>	
総 括	<p>                     ○各章の最後に「学習のまとめと発展」、終章のレポート、卒業論文、ディベート等が設定され、様々な表現活動に取り組めるよう工夫されている。                      ○重要語句は太字で示し、巻末の索引に記載され、補足も側注に記載されているため、基礎的・基本的な知識の習得に取り組めるようになっている。                      ○「アクティブに深めよう」では、自ら考え、表現する活動が設定されている。                 </p>	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">新しいみんなの公民</h2>	227 育鵬社
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の導入「入り口」では、学習内容の大筋を捉えさせる言語活動を示し、各章の章末「これから」では、社会に見られる課題について考察・構想することで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。</li> <li>○ディベートの仕方等を示した「スキルアップ（7テーマ）」や資料について取り組む課題を示す「資料活用」が適宜設定されており、技能を身に付けられるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、見開きごとに学習内容を自分の言葉でまとめる鉛筆マークや、現代社会の見方・考え方を働かせ討論や考察等の小集団での協働的な活動を促す「やってみよう（11テーマ）」等が設定されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の導入「入り口」では、章全体の学習内容の趣旨を捉えさせる言語活動が設けられ、学習内容の見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○各章の章末には、章で学習した内容を踏まえて、社会に見られる課題を自分ごととして考えさせ、社会参画への態度を養えるように「これから」が設定されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章及び見開き1単位時間の紙面では、「つかむ」・「調べる」・「まとめる」の問題解決型学習の構成となっており、学習内容を深く理解し、課題を追究・解決する学び方の工夫がされている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるために、目次と各章の冒頭にある QR コードから、学習内容に関連する動画を閲覧したり、情報を収集したりすることができるよう工夫されている。</li> <li>○章の冒頭では「どうして学ぶの？」コラムを設け、自らの日常生活や将来に向けてどう役立つかが示されている。</li> <li>○学習内容を深化させるための「学習を深めよう」や、学習を発展させるための「TRY！（16テーマ）」等が設定されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の紙面は色覚特性を踏まえて、図版は判別しやすい色や表示にする等見やすくなるように、書体はUDフォントを採用し分かりやすいよう工夫されている。</li> <li>○内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「確認」「探究」を活用して、学習内容の確認と振り返りができるよう工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の導入で学習内容の趣旨を捉え、章末には、その章で学習した内容を踏まえて、課題解決的な学習に取り組む工夫がされている。</li> <li>○問題解決できるような課題設定と、1時間で資料を効果的に使えるような工夫がされている。</li> <li>○QR コードには、学習内容に関連する動画を閲覧したり、情報を収集したりすることができる。</li> </ul>	



書名 項目	新しい社会 地図	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大きさが A4 判に拡大されたため、広い範囲の地図を大きく表示することができるようになり、多くの情報を得ることができるように工夫されている。</li> <li>○世界の各州、日本の各地方の巻末に、自然、産業、人口などの資料が掲載されていて、基本的な知識が習得できるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Bee's eye」の間に取り組むことで、1枚の図から複数のことを読み取ったり、複数の図から資料を比較検討したりすることで、資料活用の技能、思考力、判断力、表現力を育成することができるようになっている。</li> <li>○地理的分野の学習の他に、歴史的分野、公民的分野の学習とも連携した資料が掲載されており、社会的事象を多面的・多角的に考察できるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の各州の自然環境や生活・文化、産業などのイラストを配した鳥瞰図を掲載している。</li> <li>○関連するコンテンツに接続するための QR コードが設置され、主体的な学びがサポートされている。問題を解いたり、ウェブ地図の解説を聞いたり、主体的に地図帳を活用できるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Bee's eye」において自ら調べたり考えたりする問いや、SDGs に代表される現代社会に関する資料やアイコンが掲載され、諸課題を捉え、主体的に解決に取り組む態度を育てることができるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界、日本、統計、索引で大きくインデックスで色分けし、州、地方ごとに細かく色分けされている。</li> <li>○QR コードの資料が充実しており、地球を様々な表現方法で見ることができる。地図の拡大縮小ができ、世界の気候景観をカラーで見することもできる。また、解説動画も見ることができる。</li> <li>○SDGs をテーマとしたページや現代社会の諸課題に関する資料を掲載し、様々な諸問題が扱われている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○立体感のある地図表現になっており、UD フォントが使用され、見やすく工夫がされている。</li> <li>○基本図は等高段彩表現にレリーフ(陰影)表現を合わせた立体感のある地図表現であり、文字も UD フォントが使用されている。</li> <li>○基本図で示した地域を、位置図で示されている。</li> <li>○折り込みページが設けられ、地図記号を確認しやすくなっている。巻頭で地図の見方が示されており、資料の見方や他分野での活用方法が掲載されるなど、地図が使いやすくなるよう工夫されている。</li> <li>○歴史的分野や公民的分野に関連するページが設けられ、分野の枠を超えた「社会的な見方・考え方」を基に、学習テーマを深められるように工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○A4 版に拡大されたことで、地図をより大きく掲載したり、複数の資料を載せたりできるようになった。広い紙面を生かして、生徒の学びをサポートしている。</li> <li>○地方ごとに QR コンテンツがあり、地球儀、地図、映像など視覚的に学ぶことができ、統計などの学習を深められる工夫がされている。</li> <li>○防災への意識を高めながら、防災をテーマとした学習を深められるように、防災に関する地図や資料が掲載されている。</li> <li>○歴史的分野や公民的分野に関連するページを位置付け、3年間の社会科の学習全体で活用できるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	中学校社会科地図	46 帝国
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には使い方が明記されており、方位、地図記号、縮尺といった資料の読み取り方、索引の使い方などが載っている。地図帳の基本的な見方・使い方を生徒が主体的に活用できるよう工夫されている。</li> <li>○随所に配置されている問い「地図で発見！」や「地図で活用」により、地図の読み取りといった生徒の地理的技能を高める工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な資料が1つのページにまとめられている。また、縮尺も統一されているため、比較がしやすくなっている。</li> <li>○随所に配置されている、「地図で発見」から「社会的な見方・考え方」を働かせることができるようになってきている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の各州の最後にイラストで資料が掲載されていたり、日本の各地方の最後に写真付きで資料が掲載されていたり、生徒が主体的に学習したいと思える工夫がされている。</li> <li>○自然環境や生活・文化、産業などのイラストを配した鳥瞰図や、関連するコンテンツに接続するための QR コードが掲載され、主体的に地図帳を活用できるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的な見方・考え方を働かせた学習に繋げられるような問い「地図で発見！」や、SDGs に関する資料やアイコン、学びをサポートする QR コードが掲載されているため、課題を追究・解決する活動ができるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地方ごとに人口や自然に関する資料等が細かく掲載されており、調べ学習の際に活用できるように工夫されている。様々な図法で描かれた地図も掲載されている。</li> <li>○世界の各州、日本の地方ごとに QR コードが配置されており、主体的な学びを助ける工夫がされている。</li> <li>○SDGs の特設ページ「地図で考える持続可能な社会」が新設され、「持続可能な社会の実現」に向けて考察できるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大判の紙面で書かれているため、全体を捉えやすくなっている。</li> <li>○基本図は等高段彩表現にレリーフ（陰影）表現を合わせた立体感のある地図表現であり、文字も読みやすいUDフォントが使用されている。</li> <li>○基本図で示した地域を位置図で示され、同緯度・同縮尺の日本が示されている。</li> <li>○折り込みページが設けられ、地図記号を確認しやすくなっている。巻頭の「地図帳の使い方」では、内容について丁寧な解説が示されるなど、地図が読みやすくなるように工夫されている。</li> <li>○基本図や資料図に「地図で発見！」を示し、読図等の技能が身に付くだけでなく、「社会的な見方・考え方」を働かせた問題解決的な学習につながるよう工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史アイコンや公民アイコンが随所に設けられており、歴史的分野、公民的分野の学習と関連付けて学習できるようになっている。</li> <li>○大判の紙面により、各州の地域的特色を大観したり、他州や他地域とのつながりを捉えやすくしたりする工夫がされている。</li> <li>○防災や環境をテーマとした学習を深められるように、防災や環境に関する地図や資料が掲載されている。</li> <li>○多くのページに設けられた「地図で発見！」の「問い」を追究することで、「社会的な見方・考え方」が身に付けられるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	新編 新しい数学	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の学習は「Q」、「例」、「問」で構成されている。</li> <li>○「例」と似た問題に「♡」マーク、典型的な誤答には「×まちがい例」、既習事項の確認には「ちょっと確認」、一授業の境目には「クイックチェック」が設けられている。</li> <li>○節末「基本の問題」や巻末「補充の問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各節にある「Q」に、働かせてほしい数学的な見方・考え方を問う問題が示されている。</li> <li>○各節の終わりの「学びをふり返ろう」では各節で働かせてほしい数学的な見方・考え方がまとめられている。章末の「深い学び」では大切にしたい数学的な見方・考え方が示されている。</li> <li>○章の問題 A には、章の学習を振り返るレポートが用意され、表現力・書く力を高める工夫がされている。巻末にはレポートの書き方（3年ではスライドの作り方のポイント）を扱っている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各節の最初に、学習意欲を高めるための導入課題が設定されており、身の回りの問題を解決する活動から学習につながるように工夫されている。</li> <li>○「数学のまど」や章末「数学×社会」では、「数学とスポーツ栄養士」「数学と気象予報士」など社会や仕事で生きる数学を取り上げ、学習した数学の有用性を実感しやすいように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;数学的な活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数学的活動を促す発問「Q」を設定し、自分の考えを整理したり、他者と考えを説明し合ったりする際の対話シートがあり、主体的・対話的で深い学びをサポートが充実している。</li> <li>○「学びをふり返ろう」では、生徒が自ら働かせた数学的な見方・考え方を意識し、そのよさが分かるよう、内容のまとめりごとに学習を振り返る場面を設けられている。巻末には「数学の目でふり返ろう」が設定され、同じ数学的な見方・考え方を前の学習や先の学習でも働かせていることを、具体例を通して確認できるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</li> <li>○デジタルコンテンツが使える内容には「D」マークが付けられている。生徒一人ひとりが利用しながら試行錯誤できるシミュレーションが設定されている。</li> <li>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の始めに、身の回りとの関連ページが、学習課題として「Q」、発展課題「数学のまど」が枠囲みで示されている。</li> <li>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</li> <li>○右ページ外側に章ごとのインデックスが黄色とピンク色で交互にある。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身のまわり（日常や地域）とつながり、社会（仕事）とつながり、小中高を通じた見方・考え方のつながりを意識した構成になっている。</li> <li>○巻頭で「デジタルコンテンツの使い方」、「大切にしたい数学の学び」、「数学マイノート」、「この本の構成と使い方」が掲載されている。</li> <li>○巻末には基本的な学習内容を確認するための「章の問題」が設けられている。巻末には、深い学びを振り返ることができるよう「もっと数学をつなげよう」が設けられている。</li> </ul>	

項目	書名 数学の世界	4 大日本
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の学習内容を「活動」、「例」、「例題」、「Q」で身に付け、「プラス・ワン」で補充することができるように構成されている。</li> <li>○「活動」では、これまでに学んだことを生かして、調べたり考えたりする学習活動になるよう工夫がなされている。</li> <li>○「補充問題」では、自主的に取り組める問題を設けている。節末「たしかめよう」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭「数学の世界へようこそ」では、問題発見・問題解決の流れ、具体的な数学的な見方・考え方（「まとめて1つとみる」「条件を変えて考える」など）が示されている。</li> <li>○節内には、他者の考えが妥当かを判断する問題「判断しよう」や、他者の考えの内容を説明する問題「伝えよう」が設けられている。</li> <li>○節末には、学習を振り返ったり、ひろげたり、活用したりする問題「学びにプラス」が設けられている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入では、新しい学習への興味・関心を引き出すように、身近な題材が扱われている。また、数学の面白さや楽しさを味わえるように、読み物「MATHFUL」が設けられている。巻末「課題学習」、「活用・探究」では、複数の章にわたる内容を融合したり、日常生活や社会、他教科の学習と関連付けたりする課題が取り上げられており、学習した数学の有用性を実感しやすいように工夫されている。</li> <li>○章末の「章を振り返ろう」では、観点を絞り、学びの振り返りが出来るように方向性が示された問が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;数学的な活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭「この教科書の使い方」、「数学の世界へようこそ」で問題発見・問題解決の流れを示し、見いだした問題の解決の仕方が身に付くように工夫されている。「ノートの手作り」では、学習を振り返ることができるノートの書き方の工夫が紹介されている。</li> <li>○章末「社会にリンク」では、仕事の中の数学を紹介している。巻末「課題学習」では、各章の学習を融合したり、生活や他教科の学習に関連したりする問題が扱われている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○6人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</li> <li>○デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。</li> <li>○「フード・マイレージ」などSDGsと関連させて学習がすすめられよう配慮され、持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習を始める手掛かりとなる問題として「考えよう」が、学習のめあてとして「めあて」がゴシック太字で示されている。</li> <li>○新しい用語はゴシック太字で示され、必要に応じてルビが振られている。</li> <li>○右ページ外側に節ごとのインデックスがあり、内容領域で色分けされている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭で「この教科書の使い方」、「数学の世界へようこそ」、「ノートの手作り」が掲載されている。</li> <li>○各章に1箇所ずつ、問題発見、問題解決の流れが示されている。本文や章の終わりには、家庭学習に取り組めるように、「力をのばそう」、「活用・探究」、「社会にリンク」などが設けられている。巻末には、生活や学習との関連を図るために、「課題学習」、「MATHFUL」などが設けられている。</li> </ul>	

書名 項目	中学校 数学		11 学 図
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Q」では生徒キャラクターの対話を、「例」では適宜ノート形式の解答を示し、「問」で構成されている。</li> <li>○「計算力を高めよう」を通しては、基礎・基本の定着を図ることができるように工夫されている。典型的な誤答については問の中で「正しいかな？」と示されている。</li> <li>○節末「確かめよう」では、参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各節にある「Q」では、育成したい「見方・考え方」の問題が示されている。</li> <li>○各節にある「どんなことがわかったかな」では、学びの中で働かせたい数学的な見方・考え方がまとめられている。</li> <li>○巻末『「見方・考え方」をまとめよう』では、問題解決の際の思考の流れが整理されている。働かせたい見方・考え方を教科書の問題と関連付けて示している。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各節冒頭では、疑問形で終わる見出しが付いており、学習内容への興味・関心を引き出すための身近な題材が扱われている。</li> <li>○章末では「できるようになったこと」で生徒が自分の学習を評価し、「さらに学んでみたいこと」で自分の考えを記入できるように工夫されている。「数学へのいざない」では、身の回りで活用されている数学が掲載されている。</li> </ul> <p>&lt;数学的な活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章全体が、「具体的な事象」、「疑問・問題発見」、「数学的に表現した問題・焦点化した問題」、「数学的な見方・考え方を活用した予想」、「問題の解決」、「まとめ」、「生徒自身の新たな疑問」のように構成されている。</li> <li>○「数学的活動のページ」では、話し合いをもとに、生徒が主体的に疑問の発見から新たな疑問を発見する過程を協働的に行えるように工夫されている。</li> </ul>		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生キャラクターたちが、直面した問題場面に対する会話が示されており、解決したい疑問や問題を考えやすいように工夫されている。</li> <li>○「活用」や「深めよう」で持続可能な社会を見据えた問題が取り上げられている。</li> <li>○デジタルコンテンツが使える内容については、QRコードが付けられている。</li> </ul>		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元のはじめに、学習につながる課題が見開き1ページで示されている。学習課題として「Q」、「目標」が枠囲み等でわかりやすく示されている。</li> <li>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</li> <li>○右ページ外側に章ごとのインデックスが緑色と橙色で交互に示され、章と節の内容が示されている。</li> </ul>		
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭で、「この教科書を使った数学の学び」、「ノートの使い方」、「単位の書き方」、「QRコード」の使い方が掲載されている。</li> <li>○各領域のはじめに、既習内容をまとめた「ふりかえり」のページがある。章の学習の中に「どんなことがわかったかな」が設けられ、これまでの学習のまとめが示されている。</li> <li>○章末には「深めよう」のページが設けられ、より発展的な問題が掲載されている。</li> </ul>		

書名 項目	中学数学	17 教出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt; ○各章のはじめに「○章を学習する前に」、おわりに「学習のまとめ」を設け、「たしかめよう」で基礎・基本を身に付けられるように工夫している。 ○章の学習は「Q」、「例・例題」、「たしかめ」、「問」で構成されている。 ○節末「基本の問題」、巻末「補充問題」では、参照ページが示され、振り返りやすいように工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt; ○各節に登場するキャラクターの吹き出しには、働かせたい数学的な見方・考え方が示されている。 ○巻頭「大切にしたい数学的な見方・考え方」では数学の学習で働かせたい見方・考え方が示されている。 ○各節にある「見方・考え方」では大切にしたい数学的な見方・考え方が示されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt; ○章のはじめの「Let's Try」で学習意欲を高める導入課題が、身近な場面から設定されている。 ○章末「数学の広場」、「数学しごと人」では、各章での発展的内容や知識、数学の歴史や社会で数学を活用している職業や考え方を紹介し、生徒が興味・関心を持ちやすい話題が掲載されている。</p> <p>&lt;数学的な活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt; ○「みんなで数学をはじめよう！」や「学びのプロセス」で問題発見・解決の過程を示すことで主体的・対話的で深い学びを意識できるように工夫している。 ○「はてな？」（生徒の問い）から、主体的・対話的な学びを通して「なるほど！」（問題解決）を見出し、さらに「だったら!？」（新たな問い）へ繋ぎ統合的・発展的に考察するという、算数・数学の問題発見・解決の過程を位置付けた構成がなされている。</p>	
資 料	<p>○4人のキャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○「数学しごと人」の紹介で数学と社会の繋がりを見据えた資料を取り上げている。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「まなびリンク」マークが付けられている。</p>	
表記・表現	<p>○単元のはじめに、学習につながる課題「Let's Try」のページがあり、新しい学びのきっかけとして「Q」が枠囲みで示されている。 ○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。 ○右ページ外側に章ごとにインデックスが青色と緑色で交互にあり、章と節がある。</p>	
総 括	<p>○巻頭には「教科書の使い方」、「みんなで数学をはじめよう!」、「大切にしたい数学的な見方・考え方」、「工夫してノートを書こう」が掲載されている。 ○章のはじめに、既習内容を振り返る「学習する前に」のページがある。章の学習の中に学習のプロセスのページが設けられ、問題を見出して解決し、振り返るプロセスが示されている。 ○章末には章の基本的な学習内容を確認するための「学習のまとめ」が設けられている。</p>	

書名 項目	未来へひろがる数学	61 啓林館
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の本文中に既習事項を確認できる「ふりかえり」や、既習事項から新しい学習へ円滑に入れる「ひろげよう」が設けられている。</li> <li>○章の学習は「例」、「例題」、「問」、「練習問題」で構成されている。</li> <li>○章末「学びをたしかめよう」では、本文 参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。加えてQRコンテンツ「補充問題」では、反復練習を通して、基礎基本の定着を図ることができる。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭「たいせつな考え方」では、働かせたい数学的な見方・考え方が説明されている。</li> <li>○各節にある「たいせつな考え方」の箇所は色下線で示されている。</li> <li>○章末にある「学びをいかそう」では数学的な見方・考え方を働かせ思考する問題が設けられている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○節の初めの「学習のとびら」では、QRコンテンツが配置されており、その章での学習内容にまつわる内容の理解が深められるように工夫されている。</li> <li>○「数学ライブラリー」では、数学の歴史や社会で数学を活用している場面など、数学への興味・関心が高まるような話題が掲載されている。</li> </ul> <p>&lt;数学的な活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用場面に「問題を設定する、解決する、解決の過程を振り返って改善を図ったり新たな問題を設定したりする」といった数学的な問題発見・解決の過程を意識できるように工夫されている。また、統計的に問題解決を行う際には、PPDACサイクルに沿って学習に取り組めるようになっている。</li> <li>○章末「章のあしあと」では、わかったこと、できるようになったことを振り返り、育まれた資質・能力を確認してさらに学びたいことに目を向けられるようにしてある。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</li> <li>○「災害から身を守ろう」、「体を動かして健康を維持しよう」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。</li> <li>○デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○節の初めの「学習のとびら」で、新しい学びのきっかけとなる問題は「ひろげよう」のマークで示されている。</li> <li>○新しい用語はゴシック文字でルビが振られている。説明は茶色枠で囲われている。</li> <li>○右ページ外側に章ごとのインデックスが青色で示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭見返しで「ICTの活用でひろがる数学の学習」、巻頭で「構成と使い方」、「ノートのかふう」が掲載されている。</li> <li>○各節に「学習のとびら」（導入課題）を設け、主体的、対話的で深い学びのために、言語活動コーナー「説明しよう」、「話し合おう」が配置されている。学んだことにまつわる読み物「数学ライブラリー」や、学んだことを身の回りで活用する課題「学びをいかそう」が設けられている。</li> <li>○章末問題が難易度別に「学びをたしかめよう」と「学びを身につけよう」に分かれていて、少人数・習熟度別学習に活用できる。数学的活動をサポートするQRコンテンツが用意されている。</li> <li>○各章の基本的な内容を確認できるテスト問題や教科書の「○章のあしあと」の入力ができるGoogleフォームが設けられている。</li> </ul>	

書名 項目	これからの数学	104 数 研
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の前や本文中に既習事項をまとめた「ふりかえり」が設けられている。</li> <li>○章の学習は「Q」、「TRY」、「例」、「問」、「練習問題」を通して、基礎・基本を身に付けられるように工夫されている。</li> <li>○節末「確認問題」、巻末「ぐんぐんのぼそう チャレンジ編」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭「数学的な見方・考え方」や各節に登場するキャラクターの吹き出し部分は、働かせたい数学的な見方・考え方が示されている。</li> <li>○節内にある「考えよう」や章末にある「学んだことを活用しよう」や巻末にある「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では数学的な見方・考え方を働かせ思考する問題が設けられている。</li> <li>○QR コンテンツ「Link」では、星の数で難易度を変え、教科書の間を補充できる「補充」、グラフや図形を自由にかいたり動かしたりできる「考察」がある。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各節の最初では、身の回りの題材を扱うことで、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるように工夫されている。</li> <li>○「やってみよう」や「調べよう」など、その章で学習した内容にまつわる活動的な話題が設けられ、興味・関心に応じた取扱いができるように工夫されている。また、QR コンテンツ「Link」に、章の内容を総合的に使って考える課題「探求」が用意されている。</li> </ul> <p>&lt;数学的な活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新たな内容を学ぶ活動の中で、「見いだしたことがら」、「解決するための方法」、「成り立つ理由」といったことを説明する機会が設けられている。</li> <li>○キャラクターが対話を通して学習内容の理解を深めていく姿が見えることで、授業における問題解決のプロセス部分（一般化、部分に着目、関係を考える、同じように考える、条件を変える）に焦点が当たるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</li> <li>○「世界の平均気温の上昇量」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げていて、該当するSDGs ロゴがついている。</li> <li>○デジタルコンテンツが使える内容には「Link」マークが付けられている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動を通して解決する課題を「TRY」マークで、学習の中で大事にしたい問いかけを「Q」のマークで示されている。</li> <li>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</li> <li>○右ページ外側に節ごとのインデックスが青色で示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭に「この教科書について」、「学習の進め方」、「ノートづくり方」が掲載されている。</li> <li>○章の始めには既習事項をまとめた「ふりかえり」がある。章末には、生活と学習の関連を図るために、「学んだことを活用しよう」が設けられている。巻末「数学旅行」では、社会との関わり方を考えることができる話題が掲載されている。後見返しに学び方の意識を高めるための「学びの自己評価」が設けられている。</li> <li>○数学的活動をサポートするQR コンテンツが用意されている。任意でかいた図形に対して回転体を表示したり、公立高校の過去の入試問題を検索したりして解くことができるコンテンツがある。</li> </ul>	



書名 項目	中学数学		116 日 文
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章のはじめに「次の章を学ぶ前に」、本文中に「確かめ」で既習事項を確認できるように工夫されている。</li> <li>○各章の学びは「Q」、「例」、「問」で構成され、「まちがえやすい問題」で基礎基本の定着を促している。</li> <li>○節の終わりの「基本の問題」や巻末の「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「章の扉」では、キャラクターの対話や吹き出し部分を通して、その章の考え方などのきっかけ作りをしている。</li> <li>○「考えよう」、「話し合おう」、「深めよう」、「説明できるかな？」では、数学的な見方・考え方を働かせて思考できるよう協働的な学びの場面が設定されており、「大切な見方・考え方」では、思考する上でのポイントが書かれている。</li> <li>○節末にある「学びに向かう力を育てよう」や巻末「数学研究室」、「活用の問題」では数学的な見方・考え方を働かせ思考する問題が設けられている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びに向かう力を育てよう」では、巻末の「ふり返しシート」を使って学びを深められるように、「数学のたんけん」では、数学への興味・関心が高まり、学ぶ動機付けをするように工夫されている。</li> <li>○巻末の「数学マイトライ」では、数学の学習内容に関連したコラムや課題が扱われている。</li> </ul> <p>&lt;数学的な活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「数学の学習を始めよう！」では、数学の学習の流れのイメージ図が示されるとともに、数学的活動を通じた問題発見・解決の過程と学び方のポイントが示されている。各小節の横欄には「大切な見方・考え方」が示され、「数学的な見方・考え方を身につけよう！」では数学的な見方・考え方を働かせながら学ぶことの大切さが説明されている。</li> <li>○巻末の「ふり返しシート」、「対話シート」がB5サイズでノートに貼ることができ、授業の内容や学習した内容がまとめやすくなっている。</li> </ul>		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4人の中学生のキャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</li> <li>○巻末に「SDGsと数学」や「数学を仕事に生かす」、「数学研究室」の中に社会と数学の繋がりや教科横断的な内容が載っている。</li> <li>○デジタルコンテンツを活用できる内容ではQRコードが付けられている。</li> </ul>		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○QRコードの上に、「見る」、「身につける」、「調べる」、「ためす」、「図形のとまとめ」、「統計ツール」という文字が記載されている。</li> <li>○小説の始めの「めあて」は、太字で色付けがされている。まとめは色枠の中に記入されている。</li> <li>○式の中で変化したところなどの注目する部分に色付けや色分けがされている。</li> </ul>		
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭で「この本の使い方」、「数学の学習を始めよう!」、「学びに向かう力を育てよう!」、「数学的な見方・考え方を身につけよう!」、「ノートのくふう」、「ICTを活用しよう!」が掲載されている。</li> <li>○章が始まる前に「次の章を学ぶ前に」、章末に「○章の問題」、「とりくんでみよう」が掲載されている。</li> <li>○巻末の「数学マイトライ」では、数学と社会に関する内容が掲載されている。「ふり返しシート」、「対話シート」がB5サイズで用意されており、授業での活用やノートまとめに利用しやすくなっている。</li> </ul>		

書名 項目	新編 新しい科学	2 東 書
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○各節に「問題発見」「活用」が示されている。各単元の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項を確認している。                      ○観察・実験では手順をステップに分け図や写真を用いて示し、QR コンテンツで実験手順を見ることができ、実験前や巻末資料には「基本操作」を設けている。                 </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○観察・実験では、「結果の見方」と「考察のポイント」で結果・考察の視点を示している。                      ○巻頭のマンガやキャラクターで探究の進め方を示している。                      ○各節の結論を自分の考えをまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。                 </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○巻頭で探求の流れを示し、その中で教科書の使い方を説明している。「学びを生活や社会に広げよう」や「おてがる科学」などの項目があり、主体的に学習させるための工夫をしている。                      ○生命の尊さや自然環境の大切さについて生徒自らが考える場面を設け、環境問題に関心がもてるようにしている。                 </p> <p> <b>&lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt;</b>                      ○「流れに沿ってじっくり探求」のページが示されており、探究的な展開を基本とした構成になっている。                      ○「問題発見」や「構想」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。                 </p> <p> <b>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</b>                      ○「まちなか科学」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫されている。                      ○算数・数学、社会、保健体育、技術・家庭、道徳科で学習した内容について、「○で学ぶこと」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○動画による内容解説や練習ドリル、他教科との関連などを示した WEB サイトを活用したデジタルコンテンツ (D マークコンテンツ) の資料がある。                      ○日常生活や社会との関連がわかる「社会につながる科学」「まちなか科学」や科学史に関連した「歴史にアクセス」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○本文などには UD フォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句には振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。                      ○マークやキャラクターのコメント・会話を用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、全領域で問題や実験などの色を統一して表示している。                 </p>	
総 括	<p>                     ○巻頭で探究の流れや教科書の使い方などを示している。単元配列は、各単元の指導時期や内容の関連性を踏まえ、生徒の科学的概念の形成に配慮されている。                      ○単元末に「学習内容の整理」「確かめと応用・活用問題」「社会につながる科学」を示している。                      ○巻末には「自由研究」「基礎操作」などがまとめられている。巻末付録には自分で組み立てる地学単元のペーパークラフトがつけられている。                 </p>	

書名 項目	理科の世界	4 大日本
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各節（各項）に課題が示されている。各単元の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項を確認している。</li> <li>○観察・実験では手順を図や写真を用いて示し、観察・実験の近くや巻末資料の「基本操作」があり、ウェブコンテンツ動画も設けている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察・実験では、「結果の整理」と「結果から考えよう」で結果・考察の視点を示している。</li> <li>○巻頭の「理科の学習の進め方」で探究の流れや方法を示している。</li> <li>○「振り返ろう」では、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭で理科の学習の進め方を示し、その中で教科書の使い方を説明している。「問題を見つけよう」や「やってみよう」などの項目があり、生徒に主体的に学習させるための工夫をしている。</li> <li>○自然環境に関する資料に「環境マーク」を付け、環境問題に関心をもてるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「問題を見つけよう」から「振り返ろう」まで探究の過程に沿った学習を意識的に進められるようにマークで示され、色分けされており、探究的な展開を基本とした構成になっている。</li> <li>○「探究活動」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</li> </ul> <p>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「くらしの中の理科」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫されている。</li> <li>○算数・数学、美術、技術・家庭、保健体育科で学習した内容について、「つながる」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○WEB サイトを活用した動画による内容説明、補助説明やシミュレーションなどを示したデジタルコンテンツがある。</li> <li>○日常生活での科学を紹介した「くらしの中の理科」、「Science Press」や職業を紹介した「Professional」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文などにはUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句には振り仮名を付け、式は単位を付けて表記している。</li> <li>○マークやキャラクターのコメント・会話を用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、全領域で問題や実験などの色を統一して表示している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭で学習の進め方や理科室の使い方などを示している。単元配列は、小学校との関連を重視し、観察・実験のしやすい時期、学年による理科室使用の重なり、発達段階などに配慮されている。</li> <li>○単元末に「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」を示している。</li> <li>○巻末には「自由研究」「基本操作」などがまとめられている。また、3年巻末の「学習のまとめ」では、1～3年の復習ができるようになっている。</li> </ul>	

書名 項目	中学校 科学	11 学 図
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○1時間ごとに「この時間の課題」「この時間の見方、考え方」が示されている。各単元の最初と随所に既習事項が示され、章末の「学習のまとめ」で重要語句や基本事項を確認している。                      ○観察・実験では手順を大きめの写真を用いて示し、観察・実験の近くや巻末の補充資料に「基本操作」を設けている。                 </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示している。                      ○「探求を深める 理路整然」で探究の進め方や方法を示している。                      ○「探求」の結果と考察にはそれぞれ話し合いのポイントとなる問いがあり、協働的な学習によって思考が深められる構成になっている。                 </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○巻頭で、教科書の使い方やなぜ理科を学ぶのかを説明している。各章の始めに「学びのあしあと」「ふり返ろう・つなげよう」「Can-Do List」があり、生徒が主体的に観察や実験に取り組めるように工夫している。                      ○「SDGs を意識して脱炭素社会へ」に生命尊重や環境保全の話題を掲載し、環境問題に関心がもてるようにしている。                 </p> <p> <b>&lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt;</b>                      ○探究の過程がマークで示されている。マークが矢印でつながっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。                      ○「気づき」「計画」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。                 </p> <p> <b>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</b>                      ○補充資料において日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫されている。                      ○数学科で学習した内容について、キャラクターの吹き出しや「つながり・数学」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。                 </p>	
資 料	<p>○動画による内容解説、実験方法、実験結果を示した QR コードを活用したデジタルコンテンツの資料がある。</p> <p>○補助資料(実験操作、日常生活の科学)は、巻末にまとめて掲載されている。科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。</p> <p>○計算問題や読解力教科問題が巻末にまとめて掲載されており、生徒がレベルに合わせて思考を深められる工夫をしている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などには UD フォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。</p> <p>○マークやキャラクターのコメント・会話を用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、全領域で見出しや実験などの色を統一して表示している。</p>	
総 括	<p>○巻頭で理科を学ぶ意義や教科書の使い方などを示している。単元配列は、想定する年間指導計画にそった配列で系統的となっており、初任の教師が構成を理解しやすくなっている。</p> <p>○単元末に学びの深め方、読解力問題を示している。</p> <p>○巻末の内容は学年ごとに異なり、「実験器具の操作」「資料」「思考をさらに深める」などがまとめられている。</p>	

書名 項目	自然の探究 中学理科	17 教出
内 容	<p>                     &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                      ○各節に「課題」「結論」が示されている。各章の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項を確認している。                      ○観察・実験では手順をステップに分け大きめの図と写真を用いて示し、観察・実験の近く及び巻末資料に「基礎技能」を設けている。                 </p> <p>                     &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                      ○観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示している。                      ○巻頭の「探究の進め方」で、探究の流れや方法を示している。                      ○「話し合おう」「考えよう」では、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。                 </p> <p>                     &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                      ○巻頭で探究の進め方を示し、その中で理科の学習の流れをイラストなどで説明している。「やってみよう」やまなびリンクのコンテンツでは、主体的に学習させるための工夫をしている。                      ○自然保護や生命尊重に関わる内容を「ハローサイエンス」で紹介し、環境問題に関心がもてるようにしている。                 </p> <p>                     &lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt;                      ○探究の過程がマークで示され、紙面の両端に色帯がつけられており、探究的な展開を基本とした構成になっている。                      ○「疑問」「計画」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。                 </p> <p>                     &lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;                      ○「ハローサイエンス」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫されている。                      ○さまざまな教科との学習をつなげることで、災害への備えや命を守ることなどに役立てることができることを示している。                 </p>	
資 料	<p>                     ○補足説明や科学に関する情報を示した QR コードを活用したデジタルコンテンツ（まなびリンク）の資料がある。                      ○科学技術と社会生活、自然、歴史、職業との関わりを示した「ハローサイエンス」や校外施設活用の資料を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○本文などには UD フォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は色を変えて振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。                      ○マークやキャラクターのコメント・会話をを用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、全領域で問題や実験などの色を統一して表示している。                 </p>	
総 括	<p>                     ○巻頭で理科を学ぶ意義や探究の進め方などを示している。単元配列は、各単元の指導時期や学習内容のつながりを考慮した配置となっており、地域や学校の実態に応じた指導計画を立てられるように配慮されている。                      ○単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」を示している。                      ○巻末には「学年末総合問題」「校外の施設を利用しよう」「基礎技能」などがまとめられている。「理科で使う算数・数学」は算数・数学との関連が図られている。                 </p>	

書名 項目	未来へひろがるサイエンス	61 啓林館
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○各節に課題が示されている。QR コンテンツや各章の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末、QR コンテンツで重要語句や基本事項を確認している。                      ○観察・実験では手順をステップに分け大きめの写真や図を用いて示し、観察・実験の近くに「観察・実験のスキル」やQR コンテンツの動画を設けている。                 </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示している。                      ○巻末の「探Qシート」を用いて、探究の進め方や方法を示している。                      ○「探Q実習」や「探Q実験」、「考えてみよう」「発表してみよう」「活用してみよう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。                 </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○巻頭で探究の過程を示し、その中で教科書の使い方を説明している。各単元に1つ「探Q実験」を設定し、別冊「探Qシート」を活用して主体的に学習させるための工夫をしている。                      ○自然環境に関する題材に「SDGs」を付け、環境問題に関心がもてるようにしている。                 </p> <p> <b>&lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt;</b>                      ○探究の過程がマークで示されている。マークが帯でつながっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。                      ○「考えてみよう」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。                 </p> <p> <b>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</b>                      ○科学コラム「〇〇ラボ」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫されている。                      ○算数・数学で学習した内容について、「算数・数学と関連」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。                 </p>	
資 料	<p>                     ○動画による内容説明、既習内容や学習内容の確認を示したQRコードを活用したデジタルコンテンツの資料がある。                      ○科学と部活、職業、食生活、自然、歴史との関連を示した「深めるラボ」や「お料理ラボ」などの話題を示した「〇〇ラボ」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。                 </p>	
表記・表現	<p>                     ○本文などにはUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。                      ○マークやキャラクターのコメント・会話を用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、領域ごとに実験などを色分けして表示している。                 </p>	
総 括	<p>                     ○巻頭で探究の過程や教科書の使い方などを示している。単元配列は、2学期制や3学期制にも対応し、同一学年内での単元指導順序の入れ替えが自由に行えるような配置になっている。                      ○単元末に「学習のまとめ」「力だめし」「みんなで探Qクラブ」を示している。                      ○巻末には「学年末総合問題」「サイエンス資料」などがまとめられている。巻末付録に各単元の「探Qシート」がつけられている。                 </p>	

書名 項目	中学音楽 音楽のおくりもの	17 教出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Let's try! 指揮をしてみよう」では、指揮をする際の基礎的な知識及び技能についての説明があり、発達の段階に応じて習得できるようになっている。また、QRコードを読み込むことで、動画に合わせて練習することもできる。</li> <li>○「Sing! Sing!」では、歌唱表現の基礎的な知識・技能、創意工夫して音楽表現するための手がかりが示され、歌唱活動に取り組む際の基礎的な力を獲得することができる。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ACTIVE!」では、音楽を形づくっている要素や自分が感じ取ったこと・考えたことについて直接書き込みながら比較・確認できるようになっており、話し合い活動を通して学習を深めやすくなっている。</li> <li>○音楽を形づくっている要素をもとに、音楽の魅力を感じ取ったり、思いや意図を生かして表現したりできるよう、教材や扱い方が配慮されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い知識と教養、豊かな情操を培えるように、我が国及び諸外国の音楽から様々な時代や曲種のもものが掲載されており、音楽のもつ多様なよさやおもしろさを感じ取ることができるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱教材では、表現方法のポイントが示されており、音域、曲の長さ、歌詞の内容が発達の段階に応じて系統的・発展的に学び深められるようになっている。</li> <li>○創作教材「音のスケッチ」では、ことばの抑揚とリズムを関連付け、創意工夫を生かした表現で音楽をつくることができるように、活動の手順を提示し、教科書に書き込みながら学習を進められるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○著作権についてQAで具体的に示し、作品や著作権の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発想、創造を支えることの理解を促すようになっている。</li> <li>○SDGsと音楽の関わりやアウトリーチ、音楽を通じた教育活動が示され、生活や社会における音楽の意味や価値を考えられるようになっている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の巻末では楽典が教材と関連付けながら掲載されており、様々な楽器や音楽年表が写真と共に掲載されている。</li> <li>○我が国や郷土の伝統音楽で実際に使用されている譜面が大きく掲載されている。</li> <li>○QRコードから解説動画を視聴することで指揮や創作などの表現を学び、学習を深めることができるようになっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文などには、UDフォントが使用されている。</li> <li>○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分して表記されている。</li> <li>○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末の「楽典」には、掲載ページも示されている。発展として「音の三要素」が掲載されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現と鑑賞がバランスよく配置され、「学習MAP」で年間の学習内容を関連付けて示されている。</li> <li>○様々な音楽について比較しながら学習を進め、共通性と固有性を考え、音楽文化の理解を深めていけるように掲載内容の選択がされている。</li> </ul>	

書名 項目	中学生の音楽	27 教 芸
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○「指揮をしてみよう！」では、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して音楽表現するための手立でが示され、音楽の特徴に応じて学習が進められるようになっている。</p> <p>○「My Voice！」では、発達の段階に応じた歌い方が紹介されている。また、民謡・長唄では、絵譜を使って発声の特徴が示されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○各教材では音楽を知覚・感受する際の焦点が示されていたり、譜例と関連付けながら音楽を形づくっている要素が示されていたりするなど、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせられるようになっている。</p> <p>○「学びのコンパス」では学習の手順に番号を付け、各学習の段階で考えること等が分かりやすく示されており、学習の流れが把握しやすいようになっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○音楽活動を通して、音楽を形づくっている要素を捉えたり、それらを生かして創作の活動を進めたりできるよう、教材が適切に配置され、音楽と豊かに関わりながら、学校での学びと自らの生活をつなぐことができるようになっている。</p> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</p> <p>○歌唱教材では、楽曲の紹介文や注目するポイントが示されており、自国や諸外国問わず、様々な音楽表現を学べるように配慮されている。</p> <p>○創作分野における知識及び技能を身に付けられるよう「My Melody」「Let's Create!」では、旋律をつくる活動や様々な楽器や身の回りの音を用いて音楽を構成する活動などが掲載されている。</p> <p>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <p>○音楽メディアの変化や著作権等を示し、作品や著作権の創造性を新調する態度を形成し、音楽文化の継承、発想、創造を支えることへの理解を促し、自分事として捉えやすくなっている。</p> <p>○「生活や社会の中の音楽」では、音楽の役割、仕事と音楽等を示し、生活の中にある様々な音や音楽への興味・関心を高めやすくなっている。</p>	
資 料	<p>○鑑賞教材では、音楽の特徴を理解するための書き込み欄や対比表を使い、考えるポイントが掲載されている。</p> <p>○各教材のページに学習目標・音楽を形づくっている要素等が示されている。</p> <p>○QRコードを読み取ることで、学習に役立つコンテンツへアクセスして、閲覧、視聴できるようになっている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。</p> <p>○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けして表記されている。</p> <p>○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末には「音楽の約束」として、楽典資料が掲載されている。</p>	
総 括	<p>○表現と鑑賞がバランスよく配置され、目次とは別に年間の学習内容を見通しやすく、配慮されている。</p> <p>○自国や諸外国に伝わる様々な音楽が掲載されており、そのよさを感じ取りながら表現活動に取り組み、音楽文化の理解を深めやすくなっている。</p>	



項目	書名 中学器楽 音楽のおくりもの	17 教 出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;          ○楽器ごとに、様々な角度からの構え方が示され、奏法などが分かりやすく説明されている。各楽器のプロから生徒へのメッセージが掲載され、楽器に対する興味や関心、意欲を高めるための適切な情報が提供されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;          ○「表現の仕方を調べてみよう」では、楽器の表現や音楽鑑賞を通じて習得した楽器の音の生成メカニズムや旋律の特性に注目し、「話し合おう」を活かして学びを深める取り組みが盛り込まれている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;          ○「合わせて演奏しよう」では、自身の感情や意図を他の人と協力しながら活かし、様々な楽器でアンサンブル活動を通して強弱やアーティキュレーション等を工夫できるように考慮されている。個々のパートが持つ責任を一人ひとりが果たすことで、お互いを尊重し合い、協力する精神が育まれるよう配慮されている。</p> <p>○「Let's Play!」や「Let's Try!」など、合奏の難易度を示すことで、生徒が自ら積極的に学びを進め、他者と協力して演奏技術の向上が目指せるような仕組みが整えられている。</p> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;          ○基本を身につけ、「深めてみよう」という段階まで、段階的な進行があり、創造性とも関連付けて学べる教材が提供されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲集には、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの両方で演奏可能な楽譜が掲載されており、初心者でも取り組みやすい練習曲から始めることができるように配慮されている。また、楽譜の両端には運指が示されており、演奏中にいつでも確認することができる。</p> <p>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;          ○音楽を通じて人々がつながる取り組みを紹介し、生徒が日常生活や社会の中で音や音楽との関わりに注意を向け、自ら考えるよう写真やメッセージを使いわかりやすく表現されている。</p>	
資 料	<p>○楽器の名手からの熱いメッセージを通じて、生徒が音楽的な視点や思考を深めるためのヒントを得られるようにしている。</p> <p>○器楽の学習をサポートするための資料（「ギター/キーボードコード表」）が、掲載されている。</p> <p>○QRコードを読み取ることにより、模範演奏の視聴ができ、様々な角度からイメージをふくらませることができるようになっている。</p>	
表記・表現	<p>○文などには、UDフォントの使用と色覚特性への配慮がされている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明では、図やイラストを用いて、生徒が音や演奏のイメージを持ちやすくなるよう動画でわかりやすく示されている。</p> <p>○巻末の「いろいろな用語、記号」では、音符・休符・記号などの解説が示されており、掲載曲に書かれている記号を学習できるよう楽譜の枠外にも載せている。</p>	
総 括	<p>○各楽器の掲載順序をカテゴリーごとに整理することで、楽器の表現方法の特徴に基づき、共通点や相違点を考察しやすくなっている。</p> <p>○各楽器について、基礎から多彩な組み合わせによるアンサンブル、技能に応じた応用まで、系統的かつバランスよく取り上げています。また、歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮し、学校の実態に合わせて取り扱えるようたくさんの楽曲が掲載されている。</p>	

書名 項目	中学生の器楽	27 教 芸
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図で示されており、楽器の構え方については複数の角度から掲載され、生徒自身で奏法などを確認できるように説明されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びのコンパス」では、活動のヒントがイラストの吹き出しで示されているほか、QR コードで伴奏が掲載されており、演奏活動を通して確認しながら思考した内容を記述する場面が設定されるようになっている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「アンサンブルセミナー」では、自身の思いや意図を他者と協力しながら活かし、様々な楽器の演奏を通じて多彩な音楽表現を考えながら演奏できるように考慮されています。各パートの役割を一人ひとりが担うことで、自己と他者への敬意や協力を重視する姿勢が育まれるよう配慮されている。</li> <li>○器楽の学習内容を一望できるページを設けることで、生徒が自発的に学習に取り組めるよう分かりやすい図や絵を使い工夫されています。</li> </ul> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材には学習目標や学習内容に適した音楽を構成する要素が示されており、また創作活動との関連性を通じて学習できる内容が提供されている。</li> <li>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの両方で学習できるように楽譜が掲載されており、初心者でも練習しやすいように QR コードを読み取ると自分の習熟度に応じた速さで演奏することができる。また、運指がページの両端に示されており、確認しやすくなっている。</li> </ul> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各界の著名人からのメッセージや同世代の音楽活動の実例を掲載し、生徒が自発的に生活や社会の中で音や音楽との関わりに意識を向け、考えるきっかけとなるように生徒に分かりやすい分で記されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クラシック音楽だけでなく、バンドのスコアなどさまざまなジャンルの楽譜が掲載され、生徒が身近に音楽活動を味わうことができるようになっている。</li> <li>○器楽の学習をサポートするための資料（「ギター/キーボードコード表」「楽器の図鑑」）が掲載されている。</li> <li>○QR コードを読み取ることにより、音源や資料を活用でき、個別最適な学びをサポートできるように様々な曲で活用されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文などには、UD フォントの使用と色覚特性への配慮がされている。</li> <li>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。日本の伝統を味わうきっかけを与えている。</li> <li>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように示されている。</li> <li>○巻末の「音楽の約束」で音符・休符・記号等の解説が示されており、掲載曲に書かれている記号が学習できるよう疑問に感じる場面で広く活用されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導要領に準拠した3つの資質・能力に対応する学習内容や教材を見開きで提示し、学習の進捗が見通しやすくなるよう図や絵で記されている。</li> <li>○各楽器の基礎から多様な組み合わせによるアンサンブル、適切な技能の応用までを系統的にバランスよく取り上げています。また、歌唱・創作・鑑賞といった各学習活動との関連性も考慮され、学校の現実に即した取り扱いが可能となるような様々な活動形態でできるようになっている。</li> </ul>	

書名 項目	美術	9 開隆堂
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各題材の学習に必要な知識や技能が、図版や「美術の用語」でわかりやすく提示されている。</li> <li>○各巻末の「学びの資料」に題材横断的な知識や技能が系統的に整理して示され、効率よく多様な題材の学習に対応できるように構成されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○掲載作品とあわせて、「作者のことば」の吹き出しやアイデアスケッチなどを掲載し、思考させ、主題を生み出す力を身に付ける工夫がされている。</li> <li>○写真を大きく用い、生徒の豊かな発想につなげられるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各巻頭には美術を学ぶ意味や態度について考えるページを設定し、巻末には各学年と中学校美術科の学習をふり返り、自らの人間としての成長を確認することができる構成になっている。</li> <li>○作品がどのような発想・構想のもとに生まれたのかなどについて、生徒が興味・関心をもって学ぶことができるように工夫されている。に「作者のことば」を掲載し、「美術と私と社会」を掲載することで、社会と美術との関わりへの関心を高める工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各題材の最初に提示する主文において、「造形的な見方・考え方」を働かせ、深い学びに繋がるものとして、その学習の意味がわかりやすく提示されている。</li> <li>○鑑賞の題材でさまざまな問いを設定し、自分の感性を働かせて、言語として答えられるように工夫して構成されている。</li> <li>○各題材には QR コードが掲載され、インターネットを通じて、さまざまなコンテンツを利用することができるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の巻末には、知識や技能を培う資料や美術館の楽しみ方などの資料を多彩に紹介する「学びの資料」を設けている。美術1では18ページ分、美術2・3では34ページ分を充当している。</li> <li>○動画や生徒作品、ぐるっと回転させて鑑賞ができる鑑賞、ワークシートなど授業で活用しやすいデジタルコンテンツが紹介されている。</li> <li>○生徒、芸術家等の作品重視で写真が大きく、内ページが全体的につやを抑えたマットな感じで見やすい。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表紙は見えて、触って、楽しめる加工を施している。指先で触って作品の質感を想像する事ができる工夫がある。</li> <li>○親しみやすいキャラクターが掲載されていて先生キャラが造形的な視点に述べられている場合が多く、学習をサポートしている。</li> <li>○UD フォントが使用されており、ルビ振りの対応も見られる。全ページにおいてカラーユニバーサルデザインが採用されている。それぞれの表記に共通したアイコンが用いられ、分類が見やすくなるよう工夫されている。</li> <li>○題材の最初に提示する主文は三文程度にまとめられ、一読してその意味が読み取れる文章量になっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○美術の学習が、身近なSDGsの活動や豊かな社会の創造につながっていることを意識された教科書になっている。</li> <li>○他教科とのつながりや、キャリア教育への対応、日本各地の郷土の造形や美術館などを取り上げている。</li> <li>○題材のねらいや内容がわかりやすい紙面構成になっており、確かな学力が身に付き、生徒が主体的に学習し美術の学びを広げる工夫がされている。</li> </ul>	

書名 項目	美術	38 光村
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt; ○全ての題材で発達段階に応じて知識が深まるように題材が配列されている。 ○巻末に共通事項や創造的スキル、美術史に関わる資料が、「学習を支える資料」として掲載されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt; ○生徒の発想や構想の手がかりとなるよう、多くの生徒作品を掲載している。 ○「みんなの工夫」では生徒の写真と共に、制作に取り組む試行錯誤の過程を詳しく紹介している。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt; ○1年巻頭および2・3年巻頭巻末の詩人による文章や1年、2・3年のオリエンテーション（星印）、2・3年の「美術の力」などから、豊かな感性や思いやりを育み、美術の学びを人生や社会に生かすことができるように工夫されている。学習の意欲が高まるように「絵や彫刻の世界」や「みんなの工夫」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○美術の学びを人生や社会に生かすことができるように「美術の力」や「うつくしい！」と題した資料が掲載されている。</p> <p>&lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt; ○各題材に〔共通事項〕を意識させる鑑賞の問いかけと「POINT」を示し、〔共通事項〕の内容を実感的に理解しながら学習を進めることができるよう配慮されている。 ○他者と意見交換をしながら作品をつくる様子や、作者の思いや制作の意図を伝える「作者の言葉」が掲載されている。 ○制作過程を詳しく示し、主体的な作品作りができる工夫がされている。</p>	
資 料	<p>○鑑賞活動をより充実させるコンテンツが多く収録されており、QRコード（教科書）で内容がすべて見られる。（音声ナビ・解説動画・作品の画像など） ○指導者用デジタル教科書（教材）があり、豊富な資料で授業をサポートことができ、自由に編集できるワークシートや図版など、授業づくりに役立つダウンロード資料が収録されている。 ○3年間使える別冊全36ページ「資料集」がある。描く・つくる・写真・映像・発想・構想・形・色・光・色の分野に分かれている。</p>	
表記・表現	<p>○QRコード、鑑賞を深めるポイント、道徳科とのつながり、SDGsとの関連、他教科とのつながりを示すマークなどがS表記されている。 ○UDフォントが使用されており、ルビ振りの対応も見られる。全ページにおいてカラーユニバーサルデザインが採用されている。それぞれの表記に共通したアイコンが用いられ、分類が見やすくなるよう工夫されている。 ○他教科とのつながりが表記されており、教科等横断的な学習の意識を高められるような工夫がされている。</p>	
総 括	<p>○発想が広がる別冊「美術1資料」がある。折りやすい中綴じ製本を採用している。また、端末と同じサイズのA4版となっている。また、授業が見える紙面構成がされている。 ○見方が深まる「新しい鑑賞」として紙面で鑑賞し、ICTを活用した鑑賞を紹介している。 ○SDGs（防災教育や人権教育、特別支援教育への配慮、国際理解、伝統文化、キャリア教育）などに関連付けて作品を紹介している。身近な生活の中に、美術が関わっていることがよく分かる教科書となっている。</p>	

書名 項目	美術	116 日 文
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作品例に「造形的な視点」の吹き出しを入れることで、導入で造形的な視点を理解させ、制作と知識が結び付けられるような工夫がある。</li> <li>○すべての題材に導入 QR 動画「学びのはじめに」を設置したり、「鑑賞の入口」で問いかけたりと、創造的に表すことができる工夫を行っている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材ごとに「表現のヒント」が示すことで主題を生み出し、発想し構想を練ったり、見方や感じ方を深める工夫がされている。</li> <li>○学びを支える資料に「発想・構想の手立て」を掲載し、作家や生徒の発想や構想について紹介し、思考力、判断力、表現力を育成する工夫をしている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表紙と一体化された巻頭において「美術との出会い」「学びの探求と未来」「学びの実感と深まり」という資料を掲載し、授業に入る意欲美術に対する意欲を引き出す工夫をしている。</li> <li>○美術を通じた地域社会とのつながりや、キャリア教育の観点などを盛り込み、生活や社会と結びついた美術の学びができるよう工夫している。</li> </ul> <p>&lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材で着目させたい造形的な視点〔共通事項〕や考えさせたい効果等を提示している。活動の様子がわかる情景写真を掲載し、「自分ならば」という意欲を引き出す工夫をしている。</li> <li>○生徒同士が意見を出しやすい問いかけや、交流する活動写真の掲載などにより、自分の価値観を持って批評し合うなど、言語活動が充実されるような工夫がされている。</li> <li>○制作のプロセスが見えるアイデアスケッチや、作者の言葉などの発想・構想に活かせる資料を示すことにより、単なる知識や理論の学習に偏らないような工夫が見られる。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲を高めるために、「学びを支える資料」を巻末に設定し原寸大図版や見開き、高精度印刷などの造本上の工夫を行っている。</li> <li>○「作者の言葉」や「表現のヒント」等により、発想を広げたりできるような資料となるよう工夫している。</li> <li>○アーティストの制作の過程を掲載したり、注意点を示したりすることで、制作過程や仕組みなどを理解できるよう工夫している。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UD フォントが使用されており、ルビ振りの対応も見られる。全ページにおいてカラーユニバーサルデザインが採用されている。</li> <li>○すべての題材において、共通したマークや構成になっており、生徒の興味・関心・意欲を高めたり、学習内容の理解を深めたりするための工夫がされている。</li> <li>○題材の主文に合わせて「学びのはじめに」の QR コンテンツがあったり、「鑑賞の入口」の問いかけがあったりと、導入部分で深い学びに繋がられるような工夫がされている。「短時間でつくる」コーナーがある。教科書の使い方が巻頭に書かれている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材の冒頭に鑑賞作品を掲載することで表現との関連が図られ、紙面構成に統一感があるため、各題材の学習の流れが理解できるように工夫されている。</li> <li>○余計な装飾を極力抑えた白を基調とする紙面で各ページの統一感もあり、見やすく整理されている。</li> <li>○表現と鑑賞の一体化を意識した紙面作りとなっており、学習の流れがわかりやすいよう工夫されている。</li> </ul>	

項目	書名 新編 新しい保健体育	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章末の「学習のまとめ」では、サイト内に「キーワードの解説」「章末問題」が設けられ、視覚的に学ぶことで知識の定着を図ることができるように工夫されている。</li> <li>○巻末に「巻末スキルブック」が設定され、健康や安全に関係するスキルが記載されていたり、QR コンテンツによる説明や動画を視聴したりすることで知識、技能が習得しやすいように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元に「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」と4つの発問により、課題提起、課題解決の手立て、課題の応用が用意されており、自己の考えをまとめ、話し合い活動につながるように構成が工夫されている。</li> <li>○「活用する」では、習得した知識をより深く考える活動ができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他の教科との関連が記載されており、教科横断的に生徒が興味をもち、意欲的に学習に取り組めるように工夫されている。</li> <li>○章末の「学習のまとめ」には、「日常生活に生かそう」「SDGsについて考えよう」にデジタルによるワークシートがあり、学びを実生活生かせるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な世代の方や身体に障がいがある方が写真で掲載されており、様々な形でスポーツに関わり楽しんでいる姿を見ることができるよう工夫されている。</li> <li>○日常生活に生かせる内容やSDGsに関連する内容が章末に記載されており、学んだことを生かせるように工夫されている。</li> <li>○章末資料やデジタルコンテンツの資料を通して、運動に親しむ資質や能力を育成できるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章末には「章末資料」「キーワード」「章末問題」「日常生活に生かそう」「SDGsについて考えよう」など、豊富な資料に触れることができるように工夫されている。</li> <li>○「学習のまとめ」では、QR コードからサイトにアクセスし、単語や文章の補足資料や関連資料を活用することができるようにしている。</li> <li>○挿絵やキャラクターを多く掲載し、学習のヒントになるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文はUD 明朝体、本文中の重要語句はUD ゴシック体で区別されており、本文や重要語句にふりがなをつける等、UD に基づいた工夫がされている。</li> <li>○配色の系統が統一されており、色彩感覚に配慮されている。</li> <li>○1ページの紙面が本文（右側）資料（左側）になるように構成され、資料を活用しやすいように工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章のはじめに、課題と学習の流れ、道徳科の内容項目との関連が示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。</li> <li>○教科書内に書き込みができる箇所が多くあり、教科書を活用しながら学ぶことができる構成になっている。</li> <li>○デジタルコンテンツによる資料の提示等、一人一人の深い学びにつながるよう工夫されている。</li> <li>○保健体育に関連する職業の人の話が掲載され、社会的自立に向けて関心が持てるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	中学校保健体育	4 大日本
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元のはじめでは「学習のねらい」により、学習内容を把握し、見通しをもって学習に取り組めるように工夫されている。</li> <li>○各単元の最後に「キーワード」が示され、章末の学習のまとめでは「重要な言葉」を解説されている。知識の確認をしたり、サイト内の「まとめの問題」により、自ら振り返り学習したりすることができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各小単元に「つかもう」「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」「活用して深めよう」が設定されており、課題を発見、解決、生かす活動を通して思考力・判断力・表現力を育成するとともに、習得した知識を活用できるように工夫されている。</li> <li>○「学びを活かそう」では、生活に活かせる課題が設定されており、対話を通して考えを深められるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他の教科との関連が記載されており、教科横断的に生徒が興味をもち、意欲的に学習に取り組めるように工夫されている。</li> <li>○章末では他のページとのつながりが示されたり、「学びを活かそう」という課題が示されたりする等、学んだことを発展させることができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭に様々な世代のアスリートやスポーツを楽しんでいる人の写真やメッセージが記載され、豊かなスポーツライフの実現を目指すことができるように工夫されている。</li> <li>○運動やスポーツの技術と学び方の例がイラストを使ってわかりやすく説明され、理解が深まるように工夫されている。</li> <li>○各小単元には「トピックス」や「ミニ知識」が掲載され、より深い学びと理解をすることができ、生涯に渡って健康増進や豊かなスポーツライフを実現する力を養うことができるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グラフや表が多用されているため、資料を読み解く力の育成につながるように工夫されている。</li> <li>○挿絵や写真が多く、「1時間の学習の主な流れ」が示され、見通しを立てて学習に取り組めるように工夫されている。</li> <li>○『中学校保健体育 Web』のサイト内で動画を用いた学習やまとめテストで振り返りができるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UD フォントが使用されていたり、読みやすい位置で改行されていたりする等、UDに基づいた工夫がされている。</li> <li>○多彩なマークを活用し、学習内容の理解を助けるようにしている。</li> <li>○人物イラスト等では、国籍や男女の役割を限定しないようにする等、多様性に配慮している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章のはじめに、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。</li> <li>○1時間の授業を、見開き1ページで学習できるように構成されている。</li> <li>○本文と資料がページにより明確に分かれたレイアウトで統一され、毎時間迷うことなく学習に取り組むことができるようにしている。</li> <li>○デジタルコンテンツによる資料の提示など、一人一人の深い学びにつながるよう工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	最新 中学校保健体育	50 大修館
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「きょうの課題」「キーワード」「章のまとめ」が明示され、「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」が教科書の毎回同じ定められた場所に配置されていることで、見通しを立てて学習に取り組みやすいよう工夫されている。</li> <li>○「保体クイズにトライ」ではクイズ形式の CBT によりその時間に学んだ知識の確認ができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」がわかりやすく配置されており、段階的な学習過程を通して思考を深めることができるように工夫されている。</li> <li>○「学習のまとめ」や「章のまとめ」では、表現活動が設定され、話し合い活動を通して様々な考え方ができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生の生活風景や学習風景の写真や中学生からの疑問等が章の始めに掲載されており、中学生が自分事として考えることができるように工夫されている。</li> <li>○他の教科との関連が記載されており、教科横断的に生徒が興味をもち、意欲的に学習に取り組めるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「コラム」や章末の「特集資料」では関心が高い話題やエピソードがとりあげられ、本文の補足だけではなく、生涯にわたって実践する資質や能力を育成できるように工夫されている。</li> <li>○「特集資料」では社会や生活との関りの中で、さらなる学びに向かうことができるように工夫されている。</li> <li>○共生社会や多様性に関する内容が多く掲載され、様々な立場からスポーツや健康の保持増進につながるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「章のまとめ」に、基礎基本の習得や確認問題があり、観点別に振り返りができるように工夫されている。</li> <li>○現代の生活課題に対応した「コラム」「特集資料」があり、生活と学習を結びつけることができるように工夫されている。</li> <li>○「最新中学校保健体育デジタル教材」のサイト内に動画、ワークシート等のデジタルコンテンツがまとめてあり、随時活用することができるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小単元の見出しには、UD フォントが使用されていたり、色以外で判別できるグラフを使用したりする等、UD に基づいた工夫がされている。</li> <li>○国籍の多様性を意識した人物イラストや写真を採用する等、多様性に配慮している。</li> <li>○単語や文末に補足説明や関連資料へのリンクを示すことで、資料等を活用しやすくしている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の扉に、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されていたり、「この章で学習すること」で学ぶ内容を提示されていたりするなど、今後の学習に興味・関心がもてるように工夫されている。</li> <li>○資料や写真が豊富に掲載されており、レイアウトが見やすい構成になっている。</li> <li>○デジタルコンテンツによる解説動画など、一人一人の深い学びにつながるように工夫されている。</li> <li>○特集資料の中に「保健の窓」「体育の窓」が設けられ、保健分野と体育分野の関連を明記している。</li> </ul>	



書名 項目	新・中学保健体育	224 学 研
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「課題の発見」「学習の課題」「課題の解決」「学びの活用」で構成されており、見通しを立てて学習に取り組みやすいよう工夫されている。「章のまとめ」では「キーワード」「振り返ろう」「確かめよう」「生かそう」で構成され、知識の確認や振り返りができるように工夫されている。</li> <li>○身に付けるべき技能には「技能」のマークを付し、イラストや写真・動画を活用して、学習を深められるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びの活用」では、正解が1つに定められない設問で話し合い活動を行い、思考力、判断力、表現力が育成できるように工夫されている。</li> <li>○各章の扉に、学びたいことや学んだことなどを記入できるスペースを設け、表現力を育成することができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間、自己の授業での取り組み具合を自己採点できる「とりくメーター」が設定されていて、自己評価を記録しておくことができるように工夫されている。</li> <li>○「生活への活用」や「探求しようよ！」を設け、もっと学習したいことを記述し、学びに向かう力を育成することができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書全体を通して、一人一人が価値観や生き方を考えながらより良く生きることを意識できるように工夫されている。</li> <li>○「情報サプリ」では健康やスポーツに関することが示され、それらの資質・能力を育成することができるように工夫されている。</li> <li>○「JOB マーク」により、学習した内容と関連する職業が示され、キャリア教育と関連が図れるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章末にある「探求しようよ！」という補足資料や、学習を振り返り、生活に生かすことができる「章のまとめ」、学年の終わりにある「学年のまとめ」により、実生活に学んだことを生かせるような工夫がされている。</li> <li>○「教科書の使い方」「さまざまな学習方法」についてイラスト付きで具体的に示されている。</li> <li>○「学研教科書サイト」があり、動画や外部リンク、ワークシート等の資料が豊富で、サイト内で主体的に学習ができるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文には、UD デジタル教科書体が使用され、色以外で判別できるグラフを使用する等、UD に基づいた工夫がされている。</li> <li>○使う色は、色覚特性に配慮し、色数を減らすことで目に優しい紙面となっている。</li> <li>○単語や文末に補足説明や関連資料へのリンクを示すことで、資料等を活用しやすくしている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章のはじめに、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。</li> <li>○本文と資料がバランスよく配置され、資料を活用しながら学習していくことができる構成になっている。</li> <li>○デジタルコンテンツによる解説動画など、一人一人の深い学びにつながるように工夫されている。</li> <li>○「情報サプリ」や「探求しようよ！」章末資料では、興味・関心をもちやすい内容が取り上げられ、学習をさらに深めることができるように工夫されている。</li> </ul>	

<p>書名 項目</p>	<p>新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology</p>	<p>2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;                  ○技術の原理・法則や基礎的な技術の仕組みについて、本文の内容を裏付ける図などが掲載され、科学的な思考に基づく知識が習得できるよう工夫されている。                  ○副題材の実践例や「TECH Lab」には、問題解決をするために身に付ける必要がある技能がまとめられ、問題に応じて習得した技能を適切に選択できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;                  ○問題解決の流れを学習する際に、様々な技術的なものの見方を学習課題に取り入れていることで、スムーズに思考を深める流れができています。                  ○学習する項目の他教科との関連が明記されていて、教科横断性があり、指導に活かしやすい。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;                  ○身の回りの問題を多く取り扱うことで、困難な内容の分野にも取り組みやすい工夫がなされている。                  ○「技術のめがね」「最適化の窓」という欄が設けられ、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う工夫が図られている。</p> <p>&lt;技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫&gt;                  ○各内容の「社会と発展と技術」で「技術の光と影」について示されており、持続可能な社会のためにどのようなことができるか考えさせるよう工夫されている。                  ○巻頭の「SDGs と Technology」では、持続可能な社会の構築のために技術が果たしている役割について分かりやすくするよう工夫されている。                  ○巻末の「Society5.0 のその先へ」では、AI や IOT、ビッグデータについて示され、持続可能な未来のためにどのようなことができるか考えさせるよう工夫されている。</p> <p>&lt;よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫&gt;                  ○学習している技術がどのように活用されているか、活用できるかを考えさせる課題が多く見られるため、今の学習が社会にどのように影響を与えているかを考える機会になっている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○資料には身近な例を多く採用し、現在の学習内容が生活の中に活かされていることに気づくことができる工夫がされている。                  ○内容にリンクしたデジタルコンテンツが豊富に用意されているため、学びの進度に応じて生徒が自ら学ぶ環境が整えられている。理解を深めるためのコンテンツ等にリンクする QR コードも備えられている。                  ○技術に携わる人を紹介する「技術の匠」や、先進的な分野の「技術の匠」を紹介する「すごいぞ！技術」が掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○UD フォントの採用と、色覚に対する配慮がなされているため、個別の特性に合わせた学習に取り組む表記となっている。                  ○適宜ルビ振り等の配慮がなされているが、ルビを振る基準がやや曖昧である。特定の専門分野で多く使用される言葉に対してはルビが積極的に振られている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各内容は、「理解する」、「問題解決に取り組む」、「つなげる、広げる」のまとまりで構成されている。                  ○新しい技術イノベーションにつながる問題解決になるために、「統合的な問題解決」で、4つの技術を統合するよう工夫されている。</p>	

書名 項目	新 技術・家庭技術 分野 明日を創造する	6 教 図
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つめる」「見つめてみよう」「学ぶ」「振り返る」の4段階で構成され、問題解決的な学習を進めれば知識・技能が習得できるように工夫がされている。</li> <li>○学習のまとめりごとに「学習の振り返り」が掲載され、基礎的・基本的な知識・技能が習得できるように工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実際の製品の工夫の例が示されている。製品を設計する際の少しの工夫で変わることが書いてある。実習題材では中学生に身近なレシピを多数示してあり、家庭生活につながるように工夫がされている。</li> <li>○自分事として捉えられる内容の導入から始まり、問題解決的な学習の流れを明確にするような工夫がされている。どうしてそうなるか、という問いかけがある。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「自分の課題を見つけ工夫し生活する」ための実践例が多く記載されており、イメージをもって生徒が実践しやすいように工夫がされている。</li> <li>○学習内容に関わりのある人からのメッセージやインタビューを紹介し、QRで動画も視聴できるなど、社会とのつながりについて考えられるように工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各内容の「社会と発展と技術」では、「技術のプラス面とマイナス面」について示されており、「技術を誠実に活かす」というキーワードを用いて「技術の誠実ないかしかた」を考えさせるよう工夫されている。</li> <li>○SDGsの17の目標のマークが関連する学習内容に示されており、日本や社会で起こる諸問題を、自らに関わる課題として捉えさせるよう工夫されている。</li> <li>○巻末の「未来の社会を創造しよう！」では、3年間で学んだことを振り返り、未来にどのような技術があったら役に立つか考えさせるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて今ある技術のプラス面・マイナス面を考慮し、未来のために持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○別冊資料により、道具の使い方やその他の技術について詳しく説明されている。</li> <li>○実習題材が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。</li> <li>○生徒自身の設計や計画を記入できる「設計・計画シート」「計画・育成シート」が用意されている。</li> <li>○技術に携わる人を紹介する「技ビト」や、様々な製品に込められた技術などを紹介する「スゴ技」が掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。技能に関する動画、理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードが備えられている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書体はUDフォントが使用されている。</li> <li>○カラーバリアフリーの観点から、色覚に関する校閲を受けるとともに、重要語句は青太文字にし、視認性を上げるように配慮されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容は、「技術を見つめよう」、「技術をいかそう」、「未来をつくろう」のまとめりで構成されている。</li> <li>○「夢をかなえる技術」では、夢を形にしたり、工夫し創造することの大切さを伝えたりするために、領域を横断した様々な技術を紹介するよう工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	9 開隆堂
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                      ○各内容の1章において基礎・基本的な知識に触れている。材料と加工の技術の技能については、作業のポイント等も細かく表示するなどの工夫がされている。                      ○適宜「実験」や「調べ学習」を取り上げ、科学的な根拠を伴い技術を理解できるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                      ○各内容の最初に、学習の流れ及び他教科との関連が示され、学習の見通しを持たせているとともに、教科横断的な視点で学びの連続性について知ることができる。                      ○内容の技術のしくみの部分で、「技術の見方、考え方」が提示され、今後の学習のベースとなる考え方を意識できるよう工夫されている。                      ○各内容において、はじめに基礎的な知識をおさえ、「問題解決の流れ」が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                      ○より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向け、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するために、「学習を振り返ろう」「私たちの未来」という欄が設けられている。</p> <p><b>&lt;技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫&gt;</b>                      ○各内容の「私たちの未来」では、可能性（光の部分）と課題（影の部分）が示されており、これからの技術の活用について考えさせるよう工夫されている。                      ○巻頭において、「SDGs」に触れ、各内容の中の見方・考え方「願いや要求」の4項目の中に環境を取り上げ意識させるとともに、「既存の製品（機器）を読み解こう」の中で、技術とSDGsの関連について考えさせる工夫がされている。                      ○巻末の「命を守る防災、医療、介護の技術」では、社会問題となっている自然災害や命の危機に対して、3年間で学んだことを活かし解決策について考えさせる工夫がされている。</p> <p><b>&lt;よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫&gt;</b>                      ○各内容の第3章では、学習の振り返りの中で、技術の見方・考え方を働かせて、社会とのつながりについて考え、評価・適切な活用を通して、持続可能な社会の構築について考える工夫がされている。</p>	
資 料	<p>○各内容において、「技術の見方・考え方で既存の製品（先人の知恵）を読み解こう」のワークシート、「技術の見方・考え方を生かした課題解決の活動についての振り返りシート」が設けられ、繰り返し考えられるよう設定されている。</p> <p>○実習例が数多く掲載され、それぞれの地域の特性に対応できる。</p> <p>○技能の習得や理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードやイラスト・画像が豊富に備え付けてある。</p> <p>○各内容の最後に、技術を要する職業人の「Interview」が設けられ、仕事内容や勤労観等についての記事があり、生徒の職業観や勤労観を育む工夫がされている。</p>	
表記・表現	<p>○書体はUDフォントが使用され、ポイントとなる重要語句・図や参考にはゴシック体で太字にし、見分けやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインに関して専門機関の校閲を受け、人によって受ける情報の差がでないよう配慮されている。</p>	
総 括	<p>○各内容は、「基礎・基本」、「問題解決」、「技術と私たちの未来」の3部構成になっている。</p> <p>○社会の問題に技術で対応するために、「技術の出口」が用意され、各内容の技術を必要に応じて組み合わせる等、考え方を深められるよう工夫されている。</p>	

書名 項目	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材ごとの学習内容を確認したり、深めたりする記述が豊富であることで、知識及び技能の習得を図っている。</li> <li>○知識及び技能の理解や定着が図れるように、本文と同じページに調理実習や布を用いた製作にかかわる図や絵を分かりやすく掲載している。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材ごとに学習過程を提示し、学習内容を明確にしたり、思考・判断を促すような問いを多く取り入れたりしている。</li> <li>○資料を写真と文章で説明し、齟齬なく活用できるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材を通しての大きな目標と、学習内容を深めるための問いが記載されており、学びがより深まるようにしている。</li> <li>○学習の区切りや題材のまとめで「○○しよう」と、具体的に生徒に問いかけ、家庭や地域での実践を促している。</li> <li>○教科書の最後に「選択」が設けられており、これまでの学習を基によりよい生活を創造しようとする態度を養うための工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実習の学習過程にチェック表があり、学習内容を再確認し、自己評価できるようにしている。</li> <li>○調理実習や布を用いた製作の参考例が豊富に掲載されており、家庭生活に生かしたり、自らの生活に合わせて実践できるようにしたりしている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文と資料のレイアウトが統一されている。また、実物大写真や多様なデジタルコンテンツも提示し、資料の内容が豊富である。</li> <li>○ページの下には「せいかつメモ」として、学習内容に関連した資料が記載されており、生徒の興味・関心が高められるようにしている。</li> <li>○基礎的・基本的な実習例のほか、生徒の実態に合わせて資料を選択することができるように工夫がされている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容に関連する重要な文言が太字になっていたり、字体を変えることで学習の目標やポイントを分かりやすくしたりしている。</li> <li>○小学校家庭科の学習が、学習のまとまりの最初に記載されており、小学校との学習の系統性が明確になっている。</li> <li>○UD デザインフォントや、色彩特性に配慮されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グラフや図を含め、科学的な根拠や説明を多く取り入れている。そのため、情報量が豊富であるが、学習内容が理解しやすく、家庭生活において活用できるようになっている。</li> </ul>	

書名 項目	新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する	6 教 図
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図や写真、イラストを多く使用し、視覚的に知識及び技能を習得できるようにしている。</li> <li>○題材のはじめに、学習のめあてとキーワードを並列して記載し、題材で身に付ける知識及び技能を明示している。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習過程を「見つめる」「学ぶ」「振り返る」で統一して設定することで、思考・判断・表現する力を育成できるようにしている。</li> <li>○「考える」「話し合う」場面を題材に応じて設定し、多面的に学べるようにしている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容を自らの言葉でまとめたり、自己評価をしたりすることで、自らの学びを振り返ることができるようにしている。</li> <li>○題材の末に「センパイに聞こう」という項目を設定し、学びを深め、生活に生かせるようにしている。</li> <li>○問いかけが多く設けられており、自分の生活から課題を見つけるきっかけになるように工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○布を用いた製作物の大きさは、教科書に掲載してある例だけでなく、生徒の思いに添えるように大きさを変えられるようにしている。</li> <li>○新たな題材を学習する前に、生徒の実態を確認したり、生活経験を振り返ったりできるように「自立度チェック」を記載したりしている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きで、1日に必要な食品の種類や概量が分かるように掲載している。また、献立の作成時に活用できる料理例のシールがあり、彩りや分量が可視化できるようにしている。</li> <li>○ページの横に内容を説明したQRコードがあり、多くの資料を活用できるようにしている。</li> <li>○調理の実習例では、食物アレルギーに対応した代替レシピが記載され、生徒の多様性に沿った工夫がされている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容に関連する重要な文言が、青字で太くなっている。また、課題解決の場面では、文末を柔和な表現にし、生徒に問いかけている。</li> <li>○調理実習や布を用いた製作の過程が、縦書きが多く、手順が分かりやすくなっている。</li> <li>○色遣いや図の見やすさ等、UDに配慮されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真やイラストを多用し、視覚的に知識及び技能を身に付けられるようにしている。また、資料の説明も随所にあり、絵や図と文章で、学習内容を理解できるようにしている。</li> </ul>	

書名 項目	技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ	9 開隆堂
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○内容のまとめりごとに学習のまとめが記載され、知識及び技能の確認や習得ができるようにしている。</li> <li>○実験の結果や多様なデータを根拠として、知識及び技能が分かりやすく掲載されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の導入において、家庭生活での身近な疑問や気付きを提示し、学習の見通しをもてるようにしている。</li> <li>○調理実習の過程で、生徒に手順や方法を問いかけ、食品の調理上の性質や安全な調理方法について考え、判断できるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各題材のまとめで、学習した内容をもとに、今後の生活に生かすことや取り組むことを記述する欄を設け、実践しようとする思いを高められるようにしている。</li> <li>○題材のはじめに「自分の興味・関心を大切に」という項目を設定し、新たな学習への興味・関心を高めたり、学びに向かう動機づけをしたりしている。</li> <li>○生活の中での課題を考える場面が多く設定されており、自身の課題を見つけ主体的に取り組めるように工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調理実習で、必要な食品や調理用具を並列して記載し、調理計画の見通しをもてるようにしている。</li> <li>○題材の学習後に、学習した内容を工夫したり活用したりして、家庭生活や地域で実践できるように具体例を記載している。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の思いを実現できるように、実習や製作の例を数多く取り入れている。また、社会状況に応じた新たな情報を記載している。</li> <li>○漫画を活用して、生徒に親しみをもたせるとともに、学習内容を分かりやすく説明している。</li> <li>○科学的な見方・考え方が示してあったり、統計資料やグラフを用いて説明の根拠が示してあったりして、学習効果を高めるための工夫がされている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容ごとに基本的な色を決めたり、色のトーンを抑えてページを構成したりすることで、全体的に落ち着きがあるようにしている。</li> <li>○適度な余白があり、文字や資料の認識がしやすくなっている。</li> <li>○調理実習例では写真や図を使用し、衛生の注意事項のマークを表記していたり、食物アレルギー物質を含む食材には黄色を付したりして注意を促す表記がされている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材のまとめに、必ずSDGsや地域との関連を意識した記載があり、家庭生活と地域社会や、持続可能な社会の構築を関連付けている。</li> </ul>	

項目	書名 <b>NEW HORIZON English Course</b>	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元 (Unit) は、「扉」「Part」「Read and Think」「Unit Activity」で構成されている。「Part」から「Read and Think」には、それぞれ「Activity」が設けられており、スモールステップを踏みながら、Unit のテーマに応じた「Unit Activity」に取り組めるようになっている。また、単元3～4つごとに、統合的な言語活動となる「Stage Activity」が設けられている。</li> <li>○「Read and Think」には、視点を変えて読むための「Round」問題があり、段階的にまとまりのある英文の内容理解や内容について考えられるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の「扉」における「Preview」で目的、場面、状況を捉え、「Read and Think」でテーマについての理解を深め、そのテーマに準じた「Unit Activity」の表現活動へとつなげている。単元ごとの表現活動が、聞いたり読んだりした内容と乖離していないため、スモールステップを踏みながら、統合的な言語活動へ取り組むことができる。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元ごとのまとめとなる「Unit Activity」に向けて、「Part」から「Read and Think」にそれぞれ「Activity」が設けられており、段階的に無理なく「Unit Activity」に取り組める工夫がされている。</li> <li>○各「Part」や「Read and Think」には、「Plus One」や「Round 3」といった課題が設けられており、題材について自分の意見や内容の続きについて考え、表現する活動がある。 (思考ツール、学び方コーナー、Digital Map)</li> </ul> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が意欲をもって取り組むことができるように、目的・場面・状況を明確に設定した「Unit Activity」「Stage Activity」となっており、生徒が相手意識を持ちながら活動に取り組めるようになっている。</li> <li>○どの「Unit」も音から導入して文字に向かう順序で4技能をバランスよく扱うよう工夫されている。また、小学校の学びを中学校につなげられるように、聞く、話す、読む、書く活動に何度も触れることができるよう工夫されている。</li> </ul>	
学習用 デジタル 教科書に ついて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文を扱うページでは、速度変化、マスク機能、カラオケ機能、役割読みなどの機能があり、個別最適な学びが進められるようになっている。</li> <li>○Key sentence は解説動画やクイズ、アニメ等がある。字幕の ON/OFF 機能がついており、生徒のレベルに合わせて活用することができるようになっている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ダイバーシティメモ」が充実している。</li> <li>○巻頭「学習の見通し」や巻末「学習を振り返ろうーCan Do リストー」が分かりやすくまとめられている</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生の教科書は、全編 UD フォントのような独自のフォントを使用しており、2～3年生は活字体を使用している。</li> <li>○2年生以上は、発音記号が新出語句の横についている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Can Do List は、Stage ごとの項目に対して年に3回となっており、生徒にとって主体的に自分の学びの現在地について認識できるようになっている。</li> <li>○全体的にスモールステップが意識されている。</li> <li>○教科書の問いや Activity、デジタル教科書共に、教える側、学ぶ側両者の立場に立って丁寧に作られている。個別最適な学びがしやすい工夫がされている。</li> </ul>	



項目	書名 <b>SUNSHINE</b> SUNSHINE ENGLISH COURSE	9 開隆堂
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○知識、技能の習得については、各単元の前半にある「Scenes」で、マンガ形式の短い会話から新出表現を使う場面や状況の確認を行い、隣のページの「Listen」「Speak &amp; Write」で聞く活動から話したり書いたりする活動へとスムーズに移行できるようになっている。</li> <li>○「Speak &amp; Write」では、モデル文が示されている他に、「Word Box」や巻末資料の「Word Web」にも表現を使う際に使える単語やフレーズが示されており、表現を学ぶことを通して多くの単語に触れることができるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元末の Action では、題材に関連したテーマで行う自己表現活動が設けられている。発展した活動になっているが、題材との関連があるため考えやすく、相手に伝える内容を例に従ってメモをして伝える形式になっているので、英文を作りやすい。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書ページ右上の QR コードからアクセスできるデジタルコンテンツを活用し、音声を繰り返し聞いたり、単語学習アプリを活用したりすることで、生徒自身が自分のペースで学習できるようになっている。</li> <li>○各単元の終わりに、「Our Project」で行う活動と関連のある内容を示したページがあり、日頃から表現活動における相手意識を持たせることができる。</li> </ul> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文の内容理解の後には、「Review &amp; Retell」や「Action」の活動を通して、本文に関するものと本文に関連するものについて、話したり書いたりする活動をくりかえし行うことができる。</li> <li>○各学期の終わりに行われる「Our Project」では、スピーチの活動が多いが、マッピングから原稿の作成へと、手順が明確になっている。発表に向けて、他の生徒とアドバイスや評価をし合う部分もあり、学び合いながら書いたり発表したりする際の能力を高めることができる。</li> </ul>	
学習用デジタル教科書について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字や背景色の白黒反転、本文読み上げ機能、リフロー画面読み上げ機能や総ルビ表示など、学習者支援機能をカスタマイズできる。また、「単語アプリ」を使って、自分で単語学習をすることができる。</li> <li>○「Tuning in」の「Information」について、動画を見ることができる。英語で日本語字幕付きなので、リスニングとしても活用できる。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末資料で1年生では「Quick Q&amp;A」という簡単な問答に関する表現、2、3年生では「Small Talk 表現集」「Small Talk」の流れがあり、学年が上がるにつれて継続した「やりとり」をイメージすることができる。</li> <li>○「Coffee Break」というコラムのようなページがあり、本文にはない英語の表現や本文の内容と関連のある資料を使って、英語や海外の様子について興味関心を持ちやすい。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生の Program 3 までは UD フォントで、Program 4 からはブロック体になっている。2年生以降はブロック体と Century の字体になっている。</li> <li>○アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「Our Project」を軸として、各単元の終わりに言語活動で活用できる知識や技能に関して参考となる資料がある。</li> <li>○学習者用デジタル教科書では動画や音声、単語学習アプリを使って学習者自身が学ぶことができる。</li> </ul>	

項目	書名 <b>NEW CROWN English Series</b>	15 三省堂
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元は「とびら」「Part」「Side Story」「Small Talk Plus」「Goal Activity」で構成されている。「Goal Activity」に向けて段階的に学びを積み重ね、習得した技能を統合して年3回の「Project」で総合的な英語力が習得できるよう工夫されている。</li> <li>○「Take Action」では、「Talk」「Listen」「Read」の三つの領域があり、実際の場面や状況に応じた即興のやり取りや、会話を継続する活動、必要な情報をつかむ活動、情報を整理して概要や要点を捉える活動が組み込まれている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で3回ずつ、学期末のまとめの「Project」のページがある。音声と動画の見本をみてからメモや原稿をつくり、発表をする流れになっている。モデルは、英文のみならず、登場人物が作成した成果物や、撮影した動画も写っているのので、内容とその見せ方の両方を学ぶことができる。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「For Self-study」のページでは、語彙、音読、英語での表現方法など、さまざまな視点で英語の学び方が紹介されており、参考にすることができる。具体的に書かれているため、学習方法に迷ったときの指針になる。</li> <li>○教科書の題材に関連した動画を「Lesson」ごとに設け、異文化に対する理解や学びを深めるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Small Talk Plus」では、「会話を継続するためのコツ」が整理されており、Small Talkを通して会話で使える様々な方略を身に付けることができるよう工夫されている。</li> <li>○発表を行う「Goal Activity」や「Project」で、生徒は発表を実演したモデル動画を繰り返し見ることができ、話し方や伝え方の工夫を確認できるよう構成されている。</li> </ul>	
学習用デジタル教科書について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「発音チェック」機能で、AIが音読を3段階で判定してくれる。スクリプトを見ながらモデル音声を聞いて練習できる。また、オリジナルのモデル文も作成できる。Point!では、発音上の気をつける部分を確認できる。</li> <li>○自分のペースで基本文を練習できる「基本文のドリル」や「単語の練習」で、ドリル型式で練習できる。単語の発音と意味の確認から入り、モデル文のリピーティングや絵を見て文を言う練習など、発展的な活動までカバーしている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いろいろな単語」では、カテゴリー別の語彙リストと対話例が用意されていて、自己表現等で活かすことができる。</li> <li>○「Tips for Small Talk」では、会話を広げたり、深めたりするときに役立つ表現が確認できるので、言語活動時に活用できる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年の教科書は、手書き文字に近いUD系の書体を使用している。</li> <li>○色だけではなく、記号や番号、文字などで表を補っている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○りな先生の解説動画、発音チェック機能、発音図鑑、英和辞典、フラッシュカード機能、基本文ドリルと非常にデジタル教科書の内容が充実している。</li> <li>○各レッスンの内容に関連したスモールトークが用意され、small talk プラスや Tips for Small Talk など、スモールトークに力を入れている。</li> <li>○各 Read&amp;Listen のページのタスクや、Goal Activity のタスクがバラエティに富んでおり、各技能のバランスが非常によくとれている。</li> </ul>	

項目	書名 <b>ONE WORLD English Course</b>	17 教 出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各 Lesson は、「扉」「Part」「Task」「Grammar」で構成されている。各 Part は、題材についての対話文やスピーチ原稿（Scene）、Scene に含まれる新出表現とそれを扱った Listening 問題や Small Talk の課題が右側に掲載されていて、4 技能を統合しながら知識技能が身につけられるようになっている。</li> <li>○「Task」では、既習事項を生かしながら、本文の概要をまとめたり、題材について自分なりの考えを伝え合ったりする活動が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3～4 Lesson ごとに設定されている「Project」では、これまでに学んだ言語材料や各 Lesson で学んだ題材に準じた課題が設定されており、4 技能を統合的に活用しながら、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○单元ごとの目標が、Can-Do リストの形で各 Lesson の冒頭に示されている。できるようになることを意識しながら学習に取り組み、最後に自己評価ができるように工夫されている。</li> <li>○現代社会の問題を自らの課題として考えられるように、SDGs に関わる題材が多く扱われている。題材についての自分の意見を表現したり、共有したりする活動が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各 Lesson の「Think &amp; Try!」では、本文の内容を踏まえて自分の考えを表現し合う活動が設けられている。その際の活動例も豊富に掲載されており、アウトプットが苦手な生徒へのヒントになっている。</li> <li>○「Useful Expressions」では、実生活に即した具体的な場面でよく使われる表現が扱われている。その場面で使える単語や表現が絵と共に提示されていて、多様な場面を想定して練習することができる。</li> </ul>	
学習用デジタル教科書について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文音声の速度調整、新出単語ブランク機能、カラオケ機能に加えて、自分の発話した英語を録音、再生できる機能があり、ネイティブの音声と比較しながら学習を進めることができる。</li> <li>○「Grammar」の Let's use では、新出の言語材料を含む対話の見本動画が掲載されている。発音を参考にできたり、実際に表現を使う目的・場面・状況を意識させたりすることができる。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には、Welcome to ONE WORLD があり、自分の目標やなりた姿を書く欄があり、英語学習や英語を通じたコミュニケーションへの期待や学習意欲を喚起する仕組みが設けられている。また、单元ごとに QR コードが掲載されていて、本文や単語の音声スマートフォンなどで再生ができるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生の Lesson 3 までは、手書き風のオリジナルフォントを採用し判読しやすいよう工夫されている。2年生以降は一般的な書体であるが、新出単語は全て、手書きに近いフォントで書かれている。</li> <li>○アクセントは、1年生は青い三角がふられており、2年生以降は発音記号が掲載されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「Project」を軸としながら、明確な目標を意識した上で、知識・技能を活用しながら、主体的に思考力・判断力・表現力を育成できるように、構成がされている。</li> <li>○各場面で使うことのできる単語や表現が豊富に提示されており、新出の言語材料を用いながら、生徒が自分自身のことを伝え合うことができるような工夫がされている。</li> </ul>	

書名 項目	Here We Go! ENGLISH COURSE	38 光村
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元は「扉」「Part」「Goal」で構成され、3年間ひと続きのストーリーを中心に学ぶようになっており、ラウンドシステムの授業にも対応できるよう構成されている。スパイラルに学習しながら統合的な活動「You Can Do It!」につながるよう工夫されている。</li> <li>○実社会の言語使用場面で役立つ力を身に付ける「Daily Life」では、領域統合型の活動も設定されている。また、自分の言葉で表現する力や、即興力を継続的に養えるよう、「Let's Talk!」や「Story Retelling」が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の「Part」で目的や場面、状況を捉え、各「Part」を読んで理解を深めた後、情報整理、発表の「Goal」で構成されている。また、「You Can Do It!」では、「Unit」の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT活用法、学び方、Tips、思考の地図が学年に応じて詳細にまとめてある。</li> <li>○3年間のストーリーを読み進めることで、英語の使用目的や場面を理解し、話題を自分事にし、生徒の主体的な発信につながりやすくするよう構成されている。「Idea Hunt」や「TIP」では、生徒が本文を活用しながら自分なりに表現できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各Unitにある活動「About you」や「You're the writer」などは、自分自身のこと表現する活動となっている。その際、巻末資料の「Active Words」にとべるように記載があるため、表現の幅が広がるようになっている。</li> <li>○各単元で、基本文に関連した即興的なやり取りを練習できる活動が設けられている。「Let's Talk!」では、即興的なやり取りの力を継続的に高め、「You Can Do It!」では、発表活動を通してスピーキング力を育てられるよう工夫されている。</li> </ul>	
学習用 デジタル 教科書に ついて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紙面の各コーナーに起動ボタンがあり、音声や映像などのQRコンテンツにすぐにアクセスできるようになっている。また、コンテンツには「字幕表示機能」や「速度調節機能」もあり、個別最適な学びができるようになっている。</li> <li>○自分の発音を確認できる録音・再生機能があり、個別最適な学びができるようになっている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には、教科書の構成と、3年間を通しての到達目標が示され、1年間の学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、「Let's Talk!」が掲載されており場面に応じて会話する力が付けられるよう工夫されている。</li> <li>○単元ごとにQRコードが掲載され、本文の音声や単語、アニメーション、実写映像をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生は手書きフォント+ゴシック体、2年生からは活字体になっている。</li> <li>○1年生では、アクセントは各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を青色で併記している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会話文や説明文だけでなく、ポスターや案内板、広告等、実際に英語圏での生活を意識した、目的が明確にされた多種多様な英語を読む経験ができる。</li> <li>○「You Can Do It!」を軸として、互いの違いを尊重し、他者と協働しながら確かな英語の力を育むことに重点を置いている。ラウンドシステムにも対応し、よりよい未来を切り拓く力を身に付けた自律的学習者を育もうとする内容となっている。</li> </ul>	

項目	書名 <b>BLUE SKY</b> English Course	6 1 啓林館
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各 Unit の前半部分の「Part」では、4技能をバランスよく伸ばす活動を通じて、知識及び技能の習得を狙っている。新出文構造・文法（Target）を含む英文を聞き取ったり、Target を使って話したりして知識技能を養う。また、Write では話したことを正確に書く技能の習得が目指されている。</li> <li>○「Let's listen」のページでは、実生活に即したリアルな場面の英文を聞き、必要な情報、概要、要点を聞き取る技能を伸ばすことができる。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学期末を想定した、各学年3箇所「Project」が配置されている。最初に活動の目的・場面・状況を確認し、モデル文を読んだり聞いたりした後に、表やシンキングツール（マッピング、Yチャート等）を使ったりして、伝えたい内容を整理した後、発信活動を行うという流れになっている。特に自分の伝えたい内容を整理する部分が充実している。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元で4技能の課題に取り組むことを通して、基礎・基本が定着しやすく、技能統合型の言語活動「Project」に取り組みやすくするよう構成されている。</li> <li>○教科書巻末付録の「英語の学び方」のページでは、語彙、音声、表現の観点から学習に役立つコツが紹介されている。</li> </ul> <p>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Unit の各 Part に「Enjoy Chatting」の項目があり、本文内容に関連する問いが1問ずつ提示されている。また、中1で1分、中2で2分、中3で3分以上の会話を続けることが目標とされており、段階的に、継続的にやりとりする力が伸ばせるように構成されている。</li> <li>○「Let's Write」のページでは、目的・場面・状況に応じてまとまりのある文章を書く活動が用意されている。モデル文は、文章構成が分かりやすいように色分けされている。また、ペアやグループになり、書いた文章を読みあい、アドバイスを伝え合う Step が用意されている。</li> </ul>	
学習用デジタル教科書について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リフロー機能や白黒反転、文の読みあげやルビをつける機能がある。また、読み上げ機能を使用して、紙面の語句などをタップするとネイティブの発音を確認することができるようになっている。</li> <li>○新出文構造・文法（Target）の解説動画があり、生徒自身が主体的に学習活動に取り組めるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Unit 内の Listen&amp;Think のリスニングスクリプトが配置されており、聴いた内容を文字で確認することができる。</li> <li>○巻末には「CAN-DO List」が掲載されており、学習の達成度を自己評価できるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年の英語部分には、見やすく読み間違えにくいUDフォントが採用されている。また、2年からは Century Schoolbook の字体が採用され、ローマン体に少しずつ慣れていけるようになっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リテリング活動があり、教科書の内容を繰り返し、定着につなげることができるように工夫されている。</li> <li>○総教材数が非常に多く、特に書く活動が充実している。</li> <li>○「Project」を軸として、スパイラルな学びを通して定着した力を活用して即興力を養い、自分の考えを表現することに重点を置いている。ラウンドシステムにも対応し、持続可能な社会の担い手となるための資質・能力を育もうとする内容となっている。</li> </ul>	

<div style="text-align: center;">書名</div> <div style="text-align: left;">項目</div>	<b>新編 新しい道徳</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東 書</div>
内 容	<p><b>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間としての生き方について考えを深める工夫として、各教材末の発問に「ぐっと深める」を設けている。「考えよう」「見つめよう」の発問をさらに深く考えるための投げかけが行われている。</li> <li>○冒頭に学習テーマが設定されていて、ねらいとする内容項目や考えさせる内容がぶれないようになっている。指導者（授業者）同じねらいのもと授業を進めることができるようになっている。</li> <li>○道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が育つ教材が、バランスよく配置されている。とくに道徳的判断力を育むための教材として、防災に関わる教材が全学年に配置されている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年にユニット「いじめのない世界」が配置されている。複数の教材を通して、多面的・多角的にいじめ問題に向き合うことができるよう配慮されている。</li> <li>○全学年に震災に関する教材を配置し、災害時に命を守ることの大切さについて考えることができるよう配慮されている。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年2月に自己肯定感を高めるための教材を配置し、1年間の学習で学んできた自己肯定感を確認し、学年間の連携が意識できるよう配慮されている。</li> <li>○全学年に小学校の道徳でなじみのある教材を配置し、小学校での学習を想起しながら道徳的価値について考えることができるよう配慮されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全教材に「つぶやき」を設け、考えたことをメモできるようになっている。メモしたことは話し合いにも活用できる。</li> <li>○教材に即して役割演技を行うコラムが全学年に配置されている。また、コラムにはソーシャルスキルなどが取り上げられ、考えを深め、広げることができる。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年3 5教材を配置し、さらに付録に4教材を配置することで、補充、深化、統合の役割を果たせるよう構成されている。</li> <li>○写真や挿絵などの視覚から考える教材や漫画を活用した教材が掲載されている。</li> <li>○すべての教材で、冒頭の QR コードから ICT 端末を活用して、朗読音声、ワークシートなどの QR コンテンツにアクセスすることができる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原則、小学校までに学習した漢字を使用している。中学生が「読み」でつまずかないように配慮されている。</li> <li>○少し太い UD フォントを使用し、読みやすさに配慮されている。</li> <li>○目次と教材冒頭に学習指導要領の4つの視点が色とマークで示されている。巻末で現代的な課題との関わりや他教科・領域との関連が示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材冒頭のテーマと合わせ、巻末の発問が2問に絞られていることで授業のポイントが分かりやすい。「ぐっと深める」発問を活用することで、生徒がより深く考えられるようになっている。</li> <li>○巻末に設けられている心情円で、自分の考えを可視化できるよう工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	中学道徳 とびだそう未来へ	17 教出
内 容	<p>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材末に「学びの道しるべ」を設け、3つの問いを通して段階的に道徳的諸価値の理解を深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができるように工夫されている。</li> <li>○巻頭にオリエンテーションのページがあり、多様な考えを交流し合って考えを深めていく学習過程や学習方法が分かりやすく例示されている。</li> <li>○学習指導要領に示された4つの視点を色と絵柄で区別したマークで示している。どの項目をどの教材で学ぶのかを示した一覧も掲載されている。</li> </ul> <p>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年に「いじめ問題」「生命の尊さ」「つながり合って生きる」(SDGs)をテーマとして複数の教材とコラムを組み合わせたユニットが設定されている。</li> <li>○全学年を通して、災害や防災を題材とした教材やコラムが掲載されている。日々の生活で安全について考え、備えに対する意識を高めることができる。</li> </ul> <p>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報モラルについて、生徒の発達段階に合った具体的な生活場面から情報モラルについて考えることができる教材を設定している。</li> <li>○1年生では小学校での経験を想起しながら考える教材や3年生では地域の政治への参加する事例を取り上げた教材を掲載している。</li> </ul> <p>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間の学びをもとに「よりよく生きる」ということについて考えを深めるページや、学びを振り返って記録するページを設けている。</li> <li>○役割演技や日常の体験を想起して演じたり話し合ったりする「やってみよう」を設けている。体験的な学習から日常生活と結びつけることができるようにしている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本教材30本と補充教材5本で構成されており、補充教材と入れ替えて他の教材を柔軟に行えるように工夫されている。</li> <li>○内容がわかりやすい教材を扱うことで考える時間の確保ができる。</li> <li>○視覚的に生徒の興味・関心を喚起する漫画や絵本を用いた教材、写真から考える教材などさまざまな教材を掲載している。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDフォントを使用し、読みやすさに配慮している。</li> <li>○中学校で学習する常用漢字には、すべての教材で初めて出てくる漢字にふりがながついている。難しいと思われる言葉には脚注がついている。</li> <li>○目次と教材冒頭に学習指導要領の4つの視点が色とマークで示されている。巻頭末に現代的な課題等との関わりや他教材・領域との関連が示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の冒頭に「導入」の問いが設けられている。教材を通して、考えていく道徳的価値を意識づけすることができ、生徒が主体的に学べるよう工夫されている。</li> <li>○ねらいとする道徳的価値を学べるよう「学びの道しるべ」が設けられている。</li> </ul>	

書名 項目	中学道徳 きみが いちばん ひかるとき	38 光村
内 容	<p>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「てびき」が設けられ、教材を通して何を学ぶのかを生徒自身が意識できるようになっている。課題の設定や中心となる発問から、道徳的価値の意義や意味について考えを深められるように工夫されている。</li> <li>○教材の最後の「考えよう」において「見方を変えて」という視点を変えた発問設定し生徒が多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。</li> <li>○教材の最後の「考えよう」の発問を通して、授業の終わりに再度振り返りができるように工夫されている。「つなげよう」では、日常生活や教科横断的に考えることを通して、生徒自身の考えが深まるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ問題」「生命の尊さ」「情報モラル」「防災」「キャリア教育」を取り上げ、現代の課題について深く、系統的に考えられるように配置している。</li> <li>○全学年に「防災」をテーマとした教材が配置され、教材を通して過去から学んだことをもとに、生徒の防災意識が高められるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の発達段階に合わせて、話題や分量、世界の広がりや配慮し学年に応じて傾斜をつけた内容とし、全学年で学びのポイントを示し工夫されている。</li> <li>○各学年に小学校との関連や学年間での連携を意識した教材が扱われ、生徒が深く考え、ねらいを達成できるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間2回ある「チャレンジ」では生徒が問いを立て、話し合いながら考えを深めたり、役割演技によって考えを深めたりしていく活動が紹介されている。</li> <li>○「やってみよう」や「まなびをプラス」では、他者と話し合うことで多様な考え方に触れ、その良さを実感できるようになっている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○さまざまな分野で活躍する専門家がその知識に基づき語りかける読み物や等身大の生徒が登場する読み物など多様な教材が用意されている。</li> <li>○教科書紙面の二次元コードから教材で取り上げている人物へのインタビューや、教材の理解を補足する資料、朗読音声などにアクセスすることができる。</li> <li>○多様な資料により、学びを深めることができる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校以降配当の常用漢字全てに振り仮名を付している。</li> <li>○本文にはUDフォントの明朝体を用いている。</li> <li>○内容項目を巻頭でキーワードとして紹介し、各教材のはじめにマークと色わけをして、内容項目ごとの色で統一されたデザインになっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権について考えることを大切に、多様性をテーマとした教材が多く配置され、ユニットとしてまとめられている。</li> <li>○他者と協働的な学びが実現できるように生徒が自ら問いを立てて、考えることができる教材が配置されている。</li> </ul>	



書名 項目	<b>中学道徳 あすを生きる</b> 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート	116 日 文
内 容	<p> <b>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</b>            ○「道徳科での学びを始めよう！」のページで、道徳科で何をするのか、どのように学ぶのが説明されていて、道徳的価値の意義や大切さを学ぶ方法がわかるようになっている。            ○人物教材では、先人や現代を生きる人の努力や苦悩を取り上げ、人間としての生き方について考えられるようになっている。「学びを深めよう」のページでは、体験的な学習を通して多面的、多角的に考えを深める活動が設定されている。            ○豊富なコラムは現代的な諸課題に関わる5つのテーマを基にして生徒の実生活に即した内容を扱い、道徳的実践意欲につながるようになっている。         </p> <p> <b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b>            ○いじめ問題、多様性、SDGs 等に関する教材やコラムを増やし、ユニットとしてまとめている。一定期間に集中して学べるようになっている。            ○みんなで考えたい内容としてテーマを示し、問題意識をもてるように目次に可視化している。「視野を広げて」のページでは、教科を横断して多面的、多角的に考えられるようになっている。         </p> <p> <b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b>            ○学校の年間行事や発達の段階を踏まえて教材やコラムを配列することで、自分事として捉える工夫をしている。            ○各学年に小学校との関連や学年間での連携を意識した教材が扱われ、生徒が深く考え、ねらいを達成できるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b>            ○「道徳科での学びを始めよう！」というはじめのページを使ってオリエンテーションができるようになっている。考え、議論し、深めるための視点やヒントが書かれている。            ○「学びを深めよう」のページでは、問題解決的な学習や体験的な学習の流れと資料が示してあり、思考の広がりや深まりにつながるようになっている。         </p>	
資 料	<p>           ○全教材、全コラムに二次元コードがついていて、写真や動画からイメージをしやすくし、教材の内容をより詳しく知ることができる工夫がされている。            ○登場人物がはじめにイラストや写真で紹介されている。            ○それぞれの教材に合った挿絵や図が示され、写真やポスター、グラフから考えられる教材や漫画の教材など、様々な種類の教材が掲載されている。         </p>	
表記・表現	<p>           ○中学校で学習する全ての漢字にゴシック体で振り仮名がついている。            ○専門用語など難しい言葉については、下部に意味が書かれている。            ○それぞれの教材のはじめのページ上部に内容項目が示されており、マークと色で識別できるように工夫されている。         </p>	
総 括	<p>           ○別冊の道徳ノートには、授業における話し合いの内容や自分の意見を記入することができ、1年間の学習の積み重ねをしていくことができる。            ○二次元コードによって、興味を広げる資料や協働的な学びを活性化するツールが示されている。ユニバーサルデザインなど学びのための配慮もされている。         </p>	

項目	書名 新版 中学生の道徳 明日への扉	224 学 研
内 容	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の巻頭に「道徳科で学ぶこと 考えること」として、「考えを深める4つのステップ」が示されており、多様な学び方ができるように工夫されている。</li> <li>○各学年の巻頭に「よりよく生きるための22の鍵」として、4つの視点ごとにまとめて道徳の時間で学習する内容項目と教材が示されている。</li> <li>○教材の末尾に「考えよう」として発問があり、教材を読んだ流れで生徒が考えられるように工夫されている。教材に関連した資料「クローズアップ」は、様々な視点から多面的・多角的に考える力を育むことができるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「SDGs」「多様性」「キャリア」といった現代的課題について重点的に学習を深められるよう、ユニット化して取り扱っている。</li> <li>○生命の尊重を取り扱った内容の教材が充実しており、いじめ防止につながる教材も多く扱っている。</li> </ul> <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年のはじめの教材の「深めよう」は学習の流れがわかり、発達段階に合わせて考えを深めていけるように工夫されている。</li> <li>○教材の冒頭には内容に関わる言葉が記されており、生徒が教材に興味を持って向き合えるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材に「メモ」欄があるため、考えたことなどを書き込めるように工夫されている。</li> <li>○教材の後に適宜学習の流れがわかる「深めよう」というページが用意されており対話的な学習ができるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定番教材のほか、生徒がよく知る人物を扱った教材や最近の話題を取り扱った教材もあり、多様な内容を扱っている。</li> <li>○多くの教材のあとに「クローズアップ」というページが用意されており、教材の学習後にさらに学びを広げることができるよう工夫されている。</li> <li>○各教材にあるQRコードから、教材に関連するデジタルコンテンツを見ることができる、教材への理解が深まるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材のはじめに、学習指導要領の4つの視点のどれに当てはまるかをマークで表示してあるとともに、現代的な課題等との関わりもマークで示されている。</li> <li>○印象を与えるための挿絵や写真が適宜配置されている他、グラフや表などの図も効果的に用いられており、状況を理解しやすいように工夫されている。</li> <li>○注釈が多くあり、教材の理解が深まるように工夫されている。UDフォントの文字が使われている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読みつがれてきた定番教材に加え、生徒がよく知る人物を扱った教材や最近の話題を取り扱った教材もあり、多様な内容を扱っている。教科書にメモ欄が用意されており、教材を読みながら考えを記入できるように工夫されている。</li> <li>○巻末に学期ごとに振り返るための「学びの記録」が用意されており、生徒の評価にも役立てることができる。AB版で大きめのサイズとなっている。</li> </ul>	

書名 項目	中学生の道徳	232 あか図
内 容	<p><b>&lt;学習指導要領の教科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の巻頭に、授業開きに適した「道徳 はじまりの時間」が配置されており、道徳の時間で学ぶことや、学び方などが示されている。</li> <li>○「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」「考えを深める」とはどのように考えることなのか具体的に示されており、生徒が自己を見つめ、広い視野から多面的・多角的に考えを深めていけるよう工夫されている。</li> <li>○教材のあとに適宜「MY PLUS」といった問題解決的な学習や体験的な学習ができる教材や、「Thinking」といったコラムが用意されており、道徳の授業で学んだことを日常生活につなげ、道徳性を育成できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ」「情報モラル」「共に生きる社会」「キャリア」といった現代的課題について重点的に学習を深められるよう、ユニット化している。</li> <li>○いじめ防止・人権尊重に関わる内容の教材が充実している。配置時期を5・6月に設定し進級後の重点的な学習として工夫している。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の教科書の冒頭にある「道徳 はじまりの時間」は、発達段階に合わせた教材となっており各学年の実態にあった授業開きが行えるように工夫されている。</li> <li>○発達段階に合わせた考えやすい発問が用意されており、深く考えることができるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材に合わせて「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」「考えを深める」ための精選された発問が用意されており、工夫されている。</li> <li>○「MY PLUS」という、教材を読んで、問題解決的な学習や体験的な学習など多様な学習活動を通して、多角的視点から考えを深めるページがある。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定番教材のほか、現代を代表するようなスポーツ選手の教材などもあり、分かりやすく、心に響く教材が多い。</li> <li>○「Thinking」というコラムのページが多数用意されており、教材の学習後にさらに学びを広げることができるよう工夫されている。</li> <li>○各教材にある QR コードから、教材に関連する動画や Web ページなどのデジタルコンテンツを見ることができる。導入や終末などに効果的に使えるようなコンテンツが豊富に用意されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材のはじめに、学習指導要領の4つの視点のどれに当てはまるかのみをマークで表示しており、生徒が教材にフラットに向き合えるように工夫されている。</li> <li>○挿絵や写真が適切な大きさに配置されており、印象を与えたり、状況を理解させたりしやすい。</li> <li>○UD フォントの文字が使われており、文章が読みやすい。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の文章の量が適切で読みやすく、理解しやすい内容であり、発問も生徒が考えやすいものが用意されている。</li> <li>○巻末に学期ごとに振り返るための「学習の記録」のが用意されており、生徒の評価にも役立てることができる。B5版で持ちやすいサイズである。</li> </ul>	

書名 項目	道徳 中学校	233 日 科
内 容	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○内容項目の順番に対応して教材が配置されている。各学年の巻末付録に「ウェルビーイングカード」が掲載されており、自分の考えをまとめやすくしたり、話し合いを活発にしやすい工夫がされている。</li> <li>○各学年の巻頭に「ガイダンス」が掲載されており、「道徳の授業はどういうものか」「どう進めるのか」をクラス全体で共有する時間が設けられている。</li> <li>○教材の文末に「考えよう」「深めよう」の発問が掲載されており、生徒が自分の考えを深めていけるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年に、「いじめ」の問題に真正面から向き合う直接教材と、「いじめ」につながりかねない日常のあり方について注目する間接教材とが掲載されている。</li> <li>○「情報モラル」について、生徒が実感しやすい身近な教材が採用されており、道徳的課題について深く考える工夫がされている。</li> </ul> <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「キャリア形成」について、1年では「自己理解」、2年では「自己啓発」、3年では「自己実現」をテーマとした教材が採用されている。</li> <li>○生徒の発達段階を意識し、学年を追って教材の発問内容が深化されていく工夫がされている。</li> </ul> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他者との話し合いを通して、当たり前を疑い、深く考えることができるような視点がもてるよう工夫されている。</li> <li>○「思考」を重視した授業展開へと転換をするために、自分自身への「問い」から、話し合いをもとに課題解決ができるよう、発問が工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の興味・関心や、イメージをもって課題に向かうための素材について、漫画や動画の教材など多様な表現方法が用いられている。</li> <li>○道徳的価値に迫るためのテーマや話題を、さまざまな分野や業績を残した人物が直面した葛藤などに求めており、社会的・文化的な多様性、多面性を意識した教材が多く採用されている。</li> <li>○二次元コードがついている教材では、教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ページにわたり UD（ユニバーサルデザイン）フォントが使用され、視認性に対する配慮がされている。</li> <li>○教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。目次で現代的な課題等との関わりについて、様々なテーマで系統的に示されている。</li> <li>○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的・対話的で深い学びに対応できるよう、各学年の巻末の「ウェルビーイングカード」を活用し、意見を伝え合える環境になるよう工夫されている。</li> <li>○現代的な課題などを題材とした教材が数多く掲載されている。また、有名な人物の教材も豊富に掲載されている。</li> </ul>	

書名 項目	こくご・国語 星本	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書く領域では、星本4では穴埋め、選択式等、書き込みができ取り組ませやすい工夫が見られる。星本5では、言葉の使い分けの比較がわかりやすくなっている。</li> <li>○読む領域では、段落が短く5文程度なため読みやすくなっている。</li> <li>○気持ちの伝え方、話し合いの仕方の内容が充実していて、聞く力や話す力を伸ばすことができる。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○俳句や詩など、表現するためにイメージが必要なものは、写真やイラストが使用されていてイメージしやすくなっている。</li> <li>○手紙の書き方、手紙の内容を星本4から5にかけて段階的に学ぶことができる工夫が見られる。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○星本4は、容易で親しみやすい題材で、星本5で、より日常生活や社会生活に生かせる題材を使う工夫がされている。</li> <li>○感想文が苦手な生徒もスモールステップで学習できる工夫がある。</li> <li>○校外学習や学校紹介等、社会生活に結びつく内容で意欲を喚起することができる。</li> </ul> <p>&lt;読書に親しむ態度を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近でよく使われるものが扱われている。</li> <li>○同音異義語をイラストでわかりやすく学ぶことができるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○星本4では、ローマ字一覧が、星本5ではローマ字に加え、新聞記事に親しむ資料が用意されている。</li> <li>○親しみやすい読み物資料教材が豊富である。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真、イラスト、挿絵などで長文でも内容がつながりやすい工夫がある。</li> <li>○ルビがふってある。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒にとって親しみやすく、日常生活や卒業後の社会生活に直結し役立つ題材が豊富に扱われている。</li> <li>○総じて、知的障がいのある生徒の国語への関心・意欲を高め、主体的な学習態度を育成し、生活を円滑に豊かにできるようにと作られており、コミュニケーションを図るための基礎基本を養い、生きる力を伸ばすことができる教科書となっている。</li> </ul>	

書名 項目	さんすう・数学 星本		17 教出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図形は「何を」「どのように扱うのか」が段階的に写真で示されており、生徒が取り組みやすい。</li> <li>○大きな数の計算では、数を色分けして図で表すことで、生徒にとって計算の順番が視覚的にわかりやすくなっている。</li> <li>○時計、秤、温度計など日常に必要な単位や目盛りを繰り返し扱っている</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○扱う具体物、数量が身近な生活にあふれているものなので、話題として扱いやすく伝え合いしやすいものとなっている。</li> <li>○星本4で図形の基礎を学び、星本5で作図するといった系統性が重視されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲームや体験的な導入が準備されていて、生徒の興味・関心をひき、繰り返し取り組みやすくなっている。</li> <li>○デジタルとアナログがある日常生活との関連性が示されている。</li> <li>○防災倉庫の中を題材として取り上げるなど、生活の中での対応を想定する工夫が見られる。</li> </ul> <p>&lt;数学的な活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本と活用がセットになっており、「深い学び」へとつなげることができる。</li> <li>○星本5は段階的になっており、生徒が主体的に立式できるよう工夫されている。</li> </ul>		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○星本4に九九と長さが資料として載っていて、星本5につながっている。</li> <li>○色合いが工夫されている。</li> <li>○校内にあるものなど、身近なものが資料として絵で取り上げられている。</li> </ul>		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グラフや表など、直接書き込めるよう作られている。</li> <li>○重要語句や新出のものは太字で示されていて注目しやすい。</li> <li>○筆算の位取りがわかりやすくなるよう、薄青の線で区切られている。</li> </ul>		
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒をとりまく事物には、数量や形などの属性があり、普段から様々な数量や形に囲まれて生活している。</li> <li>○体験的な活動や日常生活の身近な題材や将来の社会性を想定した題材を通して、数量的な感覚を豊かにし、生徒が興味・関心をもって必要性を感じながら、数量的処理能力、図形的処理能力を高めることができる教科書となっている。</li> </ul>		

書名 項目	せいかつ 星本		2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一日の流れや学校生活の約束、気をつけるべきことなどがわかりやすく、視覚的に認識しやすいよう作られている。</li> <li>○日常生活の行動の一つ一つの動作について、スモールステップの絵や写真で示されている。</li> <li>○日常生活で困ったことが起こったらどうするか、決まりやマナーなども繰り返し扱われている。</li> <li>○様々な災害の場面に応じて、準備行動や心構えについて細かく丁寧に扱われている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉や文章は最小限で、イラストや絵で生徒がイメージをふくらませやすくなるよう工夫されている。</li> <li>○絵の人物の表情から想像力を働かせることができるよう細かく描かれている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○集団生活に欠かせない、ルールや決まり、友達との関わり方等について、繰り返し学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>○「○○しよう」という課題に対して、意欲が高まるような、一目で楽しい活動が想起できるような絵や写真が用いられている。</li> </ul> <p>&lt;具体的な活動や体験をとおして気付きの質を高めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○季節ごとに楽しそうな体験活動が紹介されていて、季節の違いや移り変わりを感じることができるよう整理されている。</li> <li>○最新の写真が使われていて、教科書で知ったことと実生活の体験がリンクしやすいよう作られている。</li> </ul>		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の施設や用具は、同じものが繰り返し出てくるなど、大切なことを自然に学ぶことができるよう工夫されている。</li> </ul>		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵だけで構成されるページも、余白部分を多く残すことで見やすい作りとなっている。</li> </ul>		
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総じて、知的障がいのある生徒が自分自身、友達、自然、社会生活のよさと関わり方等に気づくことができ、生活を円滑に豊かにすること、生活がより豊かになるよう考え表現できるようになるための基礎基本の力を伸ばす教科書となっている。</li> </ul>		

<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">項目</div> <div style="margin-left: 10px;">書名</div> </div>	おんがく・音楽 星本		2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○通常学級で扱う歌が豊富に掲載されており、学年に合ったものを学習することができるようになっている。</li> <li>○視覚と言葉両方で、歌い方やリズムや楽器の演奏法がわかりやすくなっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○季節の歌には、歌詞に合わせて写真や絵があり、イメージして表現しやすくなっている。</li> <li>○絵のイメージから楽器を演奏する活動で生徒が思いを容易に表現できるように工夫がされている。</li> <li>○星本5の最後は、学習のまとめにふさわしい音楽劇づくりが題材となっている。</li> <li>○鑑賞は動作化で指導できるよう工夫されている。</li> <li>○星本4、5では深い学びが重視されたつくりになっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体を動かす教材、興味ある楽器を調べる学習が取り入れられている。</li> <li>○生徒が自然と楽しくリズムを刻めるような曲の扱いがある。</li> </ul> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーの演奏は、四分音符が多く楽しい曲中心のため、楽しみながら基礎を身につけることができる内容である。</li> </ul> <p>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○英語の曲や新しい歌謡曲で興味・関心を惹くつくりとなっており、星本4から5にかけて段階的に用意されている。</li> </ul>		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○季節感を感じるとともに、親しみやすい曲が多く選曲されている。</li> <li>○星本5では、既習を生かしてさらに日本の民謡にも触れられるよう、豊富な楽曲が用意されている。</li> </ul>		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イメージしやすい絵が豊富である。</li> <li>○挿絵や色づかいがやわらかく、手にとって見やすくなっている。</li> <li>○説明する文は、太字が使われていて注目しやすい。</li> </ul>		
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知的発達の遅滞がある生徒には、情緒の安定、注意の集中、集団参加や協力の態度の育成を図ることは極めて重要であり、その目的を果たす役割を十分担うことのできる教科書となっている。</li> <li>○星本4から5にかけて学びのつながりが重視されており、身につけた力を段階的に発揮して、よりよい日常生活を送ることができる教科書になっていると考える。</li> </ul>		



書名 項目	社会 星本	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「私たちの暮らし」では公共交通機関のルート検索の仕方や、検索したルートの比較ポイント等が写真で示されており、生徒が取り組みやすい。</li> <li>○日本で起こる様々な災害について、災害への備えや災害時の行動等が細かく扱われている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○星本4では自分の住む町や市について学び、星本5では都道府県について学ぶといった系統性が重視されている。</li> <li>○星本4では日本と様々な国を比較する内容になっている。星本5では星本4で学んだ国についてより深く学べる内容になっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○星本4では障害者手帳やマイナンバーカードを取得していることで利用できる制度や、それに付随して受けられるサービスについて学ぶことができる。星本5では自分たちの生活を支える税金の仕組みについても学ぶことができ、実生活に結びつく内容となっている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元ごとに様々な発問がされており、資料の写真から情報を読み取ってまとめられるようになっている。</li> <li>○単元の発問に対してイラストで描かれた様々な生徒の感想や疑問が取り上げられており、より生徒に近い視点で課題解決がしやすくなっている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真やイラストだけでなく、インターネットで検索したページ等も掲載されており、実生活に結びやすくなっている。</li> <li>○色合いが工夫されていて、見やすくなっている。</li> <li>○文章だけでなくグラフや表で示されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元のまとめを直接書き込める。</li> <li>○写真やイラストからイメージしやすくなっている。</li> <li>○表にはゴシック体で書かれていて読みやすいように配慮されている。</li> <li>○見開き1ページで初めて出てきた漢字にはルビがふってある。</li> <li>○「見つける、調べる、考える、話し合う、まとめる、発表する」などのマークが各ページの間ごとに示されており、その時間にどのような活動を行うのか分かりやすくなっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の身近な題材や自分たちの生活を支える社会の仕組み、地域のことから世界のことまであらゆる題材が取り扱われており、社会生活に必要な基礎的な能力と態度を身につけられる教科書となっている。</li> </ul>	

書名 項目	理科 星本	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての単元において「問題」「予想」「観察」「結果」「まとめ」の順を追って学習できるようになっている。</li> <li>○巻末資料では道具の名前や使い方について写真やイラストを使って示されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○複数の結果を対応させて比べられるようになっている。また比べた結果を様々な視点から結びつけてまとめられるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察や実験をする際に「準備する物」や「手順」が詳しく記載されており取り組みやすくなっている。</li> </ul> <p>&lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の発問に対してイラストで描かれた様々な生徒の感想や疑問が取り上げられており、より生徒に近い視点で課題解決がしやすくなっている。</li> </ul> <p>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の導入が日常生活に関係の深い自然の仕組みや働き、事物や事象を対象とした内容になっている。観察や実験をすることで、日常生活を見直したり、学んだことを日常生活や社会生活に当てはめたりできるようになっている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○動画による内容説明、QRコードを活用したデジタルコンテンツの資料がある。</li> <li>○写真やイラストが大きく掲載されていることで主題がはっきり伝わり、生徒の思考や学習意欲が高まるような工夫がされている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験や観察から得られたデータを直接書き込めるようになっている。</li> <li>○見開き1ページで初めて出てきた漢字にはルビがふってある。</li> <li>○「注意・ポイント・学びを広げよう／深めよう」などのマークが各ページの間ごとに示されており、安全に配慮するポイントやその時間にどのような活動を行うのか分かりやすくなっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○理科の見方・考え方を働かせ観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成できる教科書となっている。</li> </ul>	

書名 項目	職業・家庭 星本	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活に即した技能が身に付けられるようになっている。</li> <li>○中学校の学習指導要領に沿った内容になっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身につけるべき職業技能や衣食住について考えられる問題について取り上げられている。また教科書に直接書き込めるようになっている。</li> <li>○タブレット端末を使用した検索方法やプレゼンテーション方法等がイラストで示されている。また、インターネットを使用する際の注意点について書かれていてインターネットトラブルに合わないための工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「自分の成長と家族」の単元では、家庭生活を営むために必要な家庭内での仕事について学ぶことができる。</li> <li>○「家庭生活と役割」の単元では、家庭での役割分担について考えられるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○星本4では食事をすることの意義や食事のマナー、調理器具の扱い方やゆでる・切る等の簡単な調理方法について学ぶことができる。星本5では五大栄養素や食品表示の見方、調理計画を立てて野菜の下ごしらえから始める調理等について学ぶことができる。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真やイラストからイメージしやすくなっている。特に調理実習の単元では工程ごとに写真の資料があることで一つ一つ手順を追っていけるようになっている。</li> <li>○実物大の食品の写真が載っていて、中学生が1日に必要な食品がイメージしやすくなっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き1ページで見やすく、初めて出てきた漢字にはルビがふってある。</li> <li>○自分の考えをまとめたり、生活を振り返ったりすることができるワークシートがついている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせて生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて学習できる内容となっている。</li> <li>○生活や職業に関する実践的・体験的な活動と相互に関連付けて、実際の生活に生きる力や生涯にわたって活用できる力が身につく内容となっている。</li> </ul>	